開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	対人関係の心理学(Interpersonal Psychology) 科目分類 専門科目 専門科目								
担 当 教 員	牧 裕夫								
履修条件	前提科目なし								
腹 修 朱 什	その他	なし							

カウンセリング・セラピーでの関係性は確かに心理臨床の構造の中で発揮される知見である。しかし、逆にそれらの中にある関係性の知はそもそも日常の場面の健康的な側面からもたらされている。心理臨床でのエッセンスから日常での人間関係への適応を図りたい。

## 授業目標:

日々の一つひとつの関係性「現在、過去、未来」「感情、行動、認知」等重層的に関わっている見方ができることを期待したい。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0		©

# 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	授業の進め方・内容に関したガイダンス	事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
2	対人関係にある『対話』一単に情報の収集や提供に止まらない一	事前:「対話」を深めている背景 事後:「対話」の中にあるカウンセリング	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
3	こころという器(育ちのなかで培われるの心、W.R. ビオン等から)	事前:乳幼児で養育者と受講者 事後:乳幼児期での体験と今日の対話	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
4	「本当の自分 (true self)」(その出会いのために、D.W. ウイニコット等)	事前:「自分らしさ」と乳幼児期の体験 事後:今日の「自分らしさ」	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
5	気持ちを分かちもつ (C.R. ロジャーズの共感等から)	事前:対話を味わうヒント? 事後:傾聴技法を意識した対話を実践	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
6	様々な三角形(エディプス関係、洞察の三角形等)	事前:上手くいかなさから学ぶ 事後:「断念」体験と「自分らしさ」	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
7	心と心を合わせる (C.G. ユング、共同注意等から)	事前:なぜ世界に同じ童話等があるのか 事後:複数ある深層心理のカタチ	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
8	相手の心を映す心のスクリーン (S. フロイトの転移等から)	事前: ネガティブな相手の思いの受止め 事後: 転移・逆転移と自己理解	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
9	心のイガイガ虫「いていいよ」と対話する(E. ジェンドリンのフォーカシング等から)。	事前:ネガティブ虫君は出て行かない 事後:ロジャーズからの展開	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
10	心の境界を行き来(システム論から)	事前:次回を楽しみな居場所の体験 事後:寂しさゆえに我慢、人生の味わい	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
11	地と図の反転(錯視体験と対人関係の関連)	事前:同じ場面でも違った体験な人生 事後:錯視、生きるヒントがそこにある	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
12	集団場面での対人関係(健康な側面)	事前:集団ならではの味わいとは 事後:ヤロムの集団体験での健康な側面	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
13	集団の大きさとその中での関係性の変化	事前:グループの人数による関係の変化 事後:W.R.Bionの基底的想定集団	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
14	PTSD と ASD(災害下での心理)	事前:ショック体験を振り返る 事後:PTSDと異なる ASD への体験	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分
15	まとめ	事前:利用できそうな内容を振り返る。 事後:ノートの整理・復習	講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分

教本:

参考文献:

授業者から適宜提供したい。

参加者の関心応じて適宜情報提供したい。

#### 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等(20%)、レポート等(30%)、期末試験(50%)等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

将来の進路との関係から関心を持てることを期待したい。

# オフィスアワー:

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文) <b>多変量解析法入門</b> (Introduction to Multivariate Statistical Analysis) 科目分類 <b>専門科目</b>									
担当教員 水本深喜									
履修条件	前提科目 ・ 心理学統計法、心理学研究法、社会調査法、社会心理学実験演習等、基礎的な統計学、研究法を履修済みであること								
腹形木片	その他 なし								

統計解析において多変量解析法が用いられることは多く、多変量解析法による分析の結果を読みこなせるようになることにより、客観的記述を正確に理解することができるようになるだろう。本授業では、多変量解析法として、因子分析、二元配置の分散分析、重回帰分析/パス解析を取り上げる。前半では多変量解析を用いた論文の読み方を学んだ上で分析の実際を体験する。そして後半では、自分たちが立てた問いに基づく調査を実施して、データを分析し、結果をまとめ、発表し、レポートにまとめるといった一連の研究のプロセスを体験する。

#### 授業目標:

多変量解析を用いた論文を読んで理解できるようになる。

自分の研究(卒業論文など)で多変量解析を用いることができるようになる。

カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション、データ解析の基礎	事前:学習済みのデータ解析法について復習しておく 事後:データ解析法の復習	講義
2	多変量解析とは	事前: 事後:多変量解析を用いた原著論文を検索する	講義
3	因子分析を用いた論文を読む	事前:因子分析を用いた論文を持参する 事後:因子分析を用いた論文を読む	講義
4	因子分析演習	事前:因子分析について復習しておく 事後:因子分析をやってみる	講義 40分,演習 50分
5	二元配置の分散分析を用いた論文を読む	事前:二元配置の分散分析を用いた論文を持参する 事後:二元配置の分散分析を用いた論文を読む	講義
6	二元配置の分散分析演習	事前:二元配置の分散分析について復習しておく 事後:二元配置の分散分析をやってみる	講義 40分,演習 50分
7	重回帰分析/パス解析を用いた論文を読む	事前:重回帰分析/パス解析を用いた論文を持参する 事後:重回帰分析/パス解析を用いた論文を読む	講義
8	重回帰分析演習	事前:重回帰分析/パス解析について復習しておく 事後:重回帰分析をやってみる	講義 40分,演習 50分
9	多変量解析を用いた研究の体験:研究デザインの立案	事前:研究デザインを考える 事後:調査紙を作成する	講義 20分、 グループワーク 70分
10	多変量解析を用いた研究の体験:調査の実施	事前:調査紙を準備する 事後:調査を実施する	講義 20分、 グループワーク 70分
11	多変量解析を用いた研究の体験:データ解析	事前:回答済み調査紙を回収する 事後:データ解析する	講義 20分、 グループワーク 70分
12	多変量解析を用いた研究の体験:解析結果の解釈	事前:解析結果を解釈してみる 事後:解析結果を解釈する	講義 20分、 グループワーク 70分
13	多変量解析を用いた研究の体験:結果発表資料の作成	事前:研究の流れを振り返る 事後:発表資料を作成する	講義 20分、 グループワーク 70分
14	多変量解析を用いた研究の体験:研究発表会	事前:発表準備 事後:各発表内容について考察する	発表 30分, 討議 60分
15	まとめ、レポートの書き方	事前:多変量解析について復習する 事後:研究結果をレポートにまとめる	講義 40分,演習 50分

教本:

指定しない

参考文献:

授業中に紹介する。

#### 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等 (50%)、レポート・テスト (50%) で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

授業には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。

# オフィスアワー:

初回授業日に伝える。

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域観光論 (Regional Tourism) 科目分類 専門								
担当教員	鷲尾 裕子								
	前提科目	なし							
履修条件	件 その他 1回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、2年次前期に受講することを奨める。								

南北に長いわが国の観光資源を地域単位で整理し、日本の多様な魅力を知る。

毎回、シート(授業時配布する用紙)に学んだ内容をまとめる。ここでは、23都道府県を学ぶ。15回の授業分を1冊にまとめ、観光振興について学ぶ貴 重な資料として、活用してもらいたい。地域観光論Ⅱで残り24府県に取り組む。

#### 授業目標:

- 1. 国内各地の観光資源について、内容や特徴を理解する。
- 2. 観光資源の特徴ごとに活用方法を学ぶ。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

# 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション、47都道府県の位置、都道府県庁所在地の確認をす る。北海道の観光資源を白地図に書き入れる。	事前:シラバスを読む 事後:地図帳で確認する	講義20分、プリント記入 20分、北海道の講義30分、 白地図記入20分
2~14	2. 青森県・岩手県・秋田県の観光資源について 3. 山形県・宮城県・福島県の観光資源について 4. 東北のまとめ 東北6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 5. 栃木県・茨城県・千葉県の観光資源について 6. 群馬県・埼玉県・東京都の観光資源について 7. 関東のまとめ 関東6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。神奈川県は13回目で学ぶ。 8. 新潟県・山梨県・長野県の観光資源について 9. 富山県・石川県・福井県の観光資源について 10. 甲信越、北陸のまとめ 甲信越、北陸、6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 11. 静岡県・愛知県・岐阜県の観光資源について 12. 中部のまとめ 中部3県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 13. 神奈川県・厚木市の観光資源について 14. 神奈川県・厚木市の観光資源について 14. 神奈川県・厚木市のまとめ 神奈川県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。	事前:前回の都道府県の地図を見直す。 事後:今回の都道府県を地図で確認する。	2・3・5・6・8・9・ 11・13回目 講義60分白地図記入合計 30分 (地図や写真を用いた講 義のあと、白地図に書き 入れる。) 4・7・10・12・14回目 発表要旨のまとめと確認 (30分) 発表と感想(60分)
15	15. 23都道府県の観光資源と県庁所在地を確認し、確認テストを行う。	事前:白地図ファイルの整理 事後:23都道府県の再確認	事前確認10分 テスト60 分 再確認20分

## 教本:

参考文献: 授業時に紹介する。 日本地図帳(中学校、高校時のものがあればそれを)初回時、説明する。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 白地図 (30%)、発表 (30%)、テスト (40%) 等で総合評価する。初回時、説明する。

# 学生へのアドバイス:

国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、2年次に受講することを奨める。

# オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域観光論 I	(Regional Tour	ism I)				科目分類	専門科目	
担当教員	鷲尾 裕子								
	前提科目	なし							
履修条件	その他 1回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める								

南北に長いわが国の観光資源を地域単位で整理し、日本の多様な魅力を知る。

毎回、シート(授業時配布する用紙)に学んだ内容をまとめる。地域観光論 I で23都道府県を学ぶ。15回の授業分を 1 冊にまとめ、観光振興について学 ぶ貴重な資料として、活用してもらいたい。地域観光論Ⅱで24府県に取り組むので続けて履修することを薦める。

#### 授業目標:

- 1. 国内各地の観光資源について、内容や特徴を理解する。
- 2. 観光資源の特徴ごとに活用方法を学ぶ。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
	0	

# 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション、47都道府県の位置、都道府県庁所在地の確認をす る。北海道の観光資源を白地図に書き入れる。	事前:シラバスを読む 事後:地図帳で確認する	講義20分、プリント記入 20分、北海道の講義30分、 白地図記入20分
2~14	2. 青森県・岩手県・秋田県の観光資源について 3. 山形県・宮城県・福島県の観光資源について 4. 東北のまとめ 東北6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 5. 栃木県・茨城県・千葉県の観光資源について 6. 群馬県・埼玉県・東京都の観光資源について 7. 関東のまとめ 関東6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。神奈川県は13回目で学ぶ。 8. 新潟県・山梨県・長野県の観光資源について 9. 富山県・石川県・福井県の観光資源について 10. 甲信越、北陸のまとめ 甲信越、北陸、6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 11. 静岡県・愛知県・岐阜県の観光資源について 12. 中部のまとめ 中部3県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 13. 神奈川県・厚木市の観光資源について 14. 神奈川県・厚木市のまとめ 神奈川県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。	事前:前回の都道府県の地図を見直す。 事後:今回の都道府県を地図で確認する。	2・3・5・6・8・9・ 11・13回目 講義60分白地図記入合計 30分 (地図や写真を用いた講 義のあと、白地図に書き 入れる。) 4・7・10・12・14回目 発表要旨のまとめと確認 (30分) 発表と感想(60分)
15	15. 23都道府県の観光資源と県庁所在地を確認し、確認テストを行う。	事前:白地図ファイルの整理 事後:23都道府県の再確認	事前確認10分 テスト60 分 再確認20分

参考文献: 授業時に紹介する。 -日本地図帳(中学校、高校時のものがあればそれを)初回時、説明する。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 白地図(30%)、発表(30%)、テスト(40%)等で総合評価する。初回時、説明する。

# 学生へのアドバイス:

国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める。

# オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域観光論 Ⅱ	(Regional Tour	ism II)				科目分類	専門科目	
担当教員	鷲尾 裕子								
	前提科目	なし							
履修条件	その他	その他 1回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める。							

南北に長いわが国の観光資源を地域単位で整理し、日本の多様な魅力を知る。

毎回、シート(授業時配布する用紙)に学んだ内容をまとめる。15回の授業分を1冊にまとめ、観光振興について学ぶ貴重な資料として、活用してもら いたい。

#### 授業目標:

- 1. 国内各地の観光資源について、内容や特徴を理解する。
- 2. 観光資源の特徴ごとに活用方法を学ぶ。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

# 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション、47都道府県の位置、都道府県庁所在地の確認をする。北海道の観光資源を白地図に書き入れる。	事前:シラバスを読む 事後:地図帳で確認する	講義20分、プリント記入 20分、北海道の講義30分、 白地図記入20分
2~14	2. 滋賀県・京都府の観光資源について 3. 三重県・奈良県・和歌山県の観光資源について 4. 兵庫県・大阪府の観光資源について 5. 関西のまとめ 関西7県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 6. 鳥取県・島根県の観光資源について 7. 岡山県・広島県・山口県の観光資源について 8. 愛媛県・香川県の観光資源について 9. 徳島県・高知県の観光資源について 10. 中国・四国のまとめ 中国・四国9県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 11. 福岡県・佐賀県・長崎県の観光資源について 12. 大分県・熊本県・宮崎県の観光資源について 13. 鹿児島県・沖縄県の観光資源について 14. 九州・沖縄のまとめ 九州・沖縄8県の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。	事前:前回の都道府県の地図を見直す。 事後:今回の都道府県を地図で確認する。	2・3・4・6・7・8・9・11・12・13回目 講義60分白地図記入合計 30分 (地図や写真を用いた講 義のあと、白地図に書き 入れる。) 5・10・14回目 発表要旨のまとめと確認 (30分) 発表と感想 (60分)
15	15. 24府県の観光資源と県庁所在地を確認し、確認テストを行う。	事前:白地図ファイルの整理 事後:24府県の再確認	事前確認10分 テスト60 分 再確認20分

# 教本:

参考文献: 授業時に紹介する。 -日本地図帳(中学校、高校時のものがあればそれを)初回時、説明する。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 白地図 (30%)、発表 (30%)、テスト (40%) 等で総合評価する。初回時、説明する。

学生へのアドバイス: 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める。

# オフィスアワー:

開講年次	<b>4 年次 半期</b> 選択	・必修 選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文) 地域振興論(Regional Promotion) 科目分類 専門科目								
担当教員	飯島 祥二							
履修条件	前提科目なし							
版	その他なし							

地域振興の概念を説明し、わが国の地域振興の現状とその内容を概説する。最初に、地域振興の基本的課題である産業振興(観光振興を含む)・コミュニティの育成・地域資源のブランド化などを、基幹的計画である国土計画・都市計画を俯瞰しながら論ずる。そして、地域環境のデータ分析を行い、今後の持続可能的な地域振興・観光振興の在り方を検討する。また、近年の観光振興の新しい流れをこれらの観点から説明する。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。

#### 授業目標:

①地域振興の概念・歴史等を理解する。②都市計画の概念と地域振興との関係性において理解する。③地域振興と観光振興の関係性を理解する。④地域環境を地方自治体の規模別に俯瞰し、今後の地域振興・観光振興の在り方を考察する。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業計	<b>町、事前字省・事後字省、形式</b>		
授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション	事前:シラバスの確認 事後:ノートを整理して復習	講義 90 分
2	地域振興の意味と定義	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
3	都市計画・地域振興・観光振興	事前:次回の予習	前回の確認10分、講義70分、
	(ハード的 - ソフト的という軸における関係性)	事後:ノートを整理して復習	小レポート10分
4	都市計画の歴史	事前:次回の予習	前回の確認10分、講義70分、
	(都市という居住空間の計画史と地域振興)	事後:ノートを整理して復習	小レポート10分
5	わが国の都市計画	事前:次回の予習	前回の確認10分、講義70分、
	(原理と基本的タームの理解)	事後:ノートを整理して復習	小レポート10分
6	国土計画と観光振興 (1)	事前:次回の予習	前回の確認10分、講義40分、
	(全国総合開発計画の歴史的変遷)	事後:ノートを整理して復習	実習40分
7	国土計画と観光振興 (2)	事前:次回の予習	前回の確認10分、講義70分、
	(観光振興と全国総合開発計画)	事後:ノートを整理して復習	小レポート10分
8	地域振興とコミュニティ	事前:次回の予習	前回の確認10分、講義40分、
	(コミュニティの歴史と現状と地域振興)	事後:ノートを整理して復習	実習40分
9	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析(地域の人口・産業振	事前:次回の予習	前回の確認10分、講義70分、
	興・福祉・行政・医療等):データの読み方	事後:ノートを整理して復習	小レポート10分
10	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析:データの分析から見	事前:次回の予習	前回の確認10分、講義70分、
	られる地域振興(政策)の特性と今後の課題	事後:ノートを整理して復習	小レポート10分
11	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析:観光振興の観点から	事前:次回の予習	前回の確認10分、講義70分、
	の分析と今後の観光政策の課題	事後:ノートを整理して復習	小レポート10分
12	地域振興と観光振興 (1)	事前:次回の予習	前回の確認10分、講義70分、
	(その複合的側面:事例の提示を通して [国内])	事後:ノートを整理して復習	小レポート10分
13	地域振興と観光振興 (2)	事前:次回の予習	前回の確認10分、講義70分、
	(それらの複合的側面:事例の提示を通して [海外])	事後:ノートを整理して復習	小レポート10分
14	DMO(Destination management organization)等の新しい観光振興の在り方の妥当性の分析と今後の課題	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
15	まとめ	事前: 今までの講義の復習 事後: 講義全体の復習	前回の確認10分、講義80分

#### 教本:

毎回資料を配布する。

参考文献:

適時教示する。

## 成績評価の方法、評価基準:

平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

地域振興の基底にある「国土計画や都市計画」を考えながら「観光振興の在り方」を考えること。

# オフィスアワー:

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域振興論 I	(Regional Prom	otion I)				科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
腹   廖 宋   针	その他	なし							

地域振興の概念を説明し、わが国の地域振興の現状とその内容を概説する。最初に、地域振興の基本的課題である産業振興(観光振興を含む)・コミュニティの育成・地域資源のブランド化などを、基幹的計画である国土計画・都市計画を俯瞰しながら論ずる。そして、地域環境のデータ分析を行い、今後の持続可能的な地域振興・観光振興の在り方を検討する。また、近年の観光振興の新しい流れをこれらの観点から説明する。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。

#### 授業目標:

①地域振興の概念・歴史等を理解する。②都市計画の概念と地域振興との関係性において理解する。③地域振興と観光振興の関係性を理解する。④地域環境を地方自治体の規模別に俯瞰し、今後の地域振興・観光振興の在り方を考察する。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

# 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業計	一、事則子育・事依子育、形式		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション	事前:シラバスの確認 事後:ノートを整理して復習	講義90分
2	地域振興の意味と定義	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分
3	都市計画・地域振興・観光振興	事前:次回の予習	前回の確認 10 分、講義 70 分、
	(ハード的 - ソフト的という軸における関係性)	事後:ノートを整理して復習	小レポート 10 分
4	都市計画の歴史	事前:次回の予習	前回の確認 10 分、講義 70 分、
	(都市という居住空間の計画史と地域振興)	事後:ノートを整理して復習	小レポート 10 分
5	わが国の都市計画	事前:次回の予習	前回の確認 10分、講義 70分、
	(原理と基本的タームの理解)	事後:ノートを整理して復習	小レポート 10分
6	国土計画と観光振興 (1)	事前:次回の予習	前回の確認 10 分、講義 40 分、
	(全国総合開発計画の歴史的変遷)	事後:ノートを整理して復習	実習 40 分
7	国土計画と観光振興 (2)	事前:次回の予習	前回の確認 10分、講義 70分、
	(観光振興と全国総合開発計画)	事後:ノートを整理して復習	小レポート 10分
8	地域振興とコミュニティ	事前:次回の予習	前回の確認 10 分、講義 40 分、
	(コミュニティの歴史と現状と地域振興)	事後:ノートを整理して復習	実習 40 分
9	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析(地域の人口・産業振	事前:次回の予習	前回の確認 10分、講義 70分、
	興・福祉・行政・医療等):データの読み方	事後:ノートを整理して復習	小レポート 10分
10	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析:データの分析から見	事前:次回の予習	前回の確認 10分、講義 70分、
	られる地域振興(政策)の特性と今後の課題	事後:ノートを整理して復習	小レポート 10分
11	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析:観光振興の観点から	事前:次回の予習	前回の確認 10 分、講義 70 分、
	の分析と今後の観光政策の課題	事後:ノートを整理して復習	小レポート 10 分
12	地域振興と観光振興 (1)	事前:次回の予習	前回の確認 10 分、講義 70 分、
	(その複合的側面:事例の提示を通して [国内])	事後:ノートを整理して復習	小レポート 10 分
13	地域振興と観光振興 (2)	事前:次回の予習	前回の確認 10 分、講義 70 分、
	(それらの複合的側面:事例の提示を通して [海外])	事後:ノートを整理して復習	小レポート 10 分
14	DMO (Destination management organization) 等の新しい観光振興の在り方の妥当性の分析と今後の課題	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分
15	まとめ	事前: 今までの講義の復習 事後: 講義全体の復習	前回の確認10分、講義80分

教本:

スキ・ 毎回資料を配布する。 参考文献:

適時教示する。

## 成績評価の方法、評価基準:

平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

地域振興の基底にある「国土計画や都市計画」を考えながら「観光振興の在り方」を考えること。

# オフィスアワー:

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	地域振興論 Ⅱ	(Regional Pron	notion II )				科目分類	専門科目	
担当教員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
腹形朱叶	その他	なし							

わが国の地域振興の成立ちと内容を観光振興の観点から概説する。本講義の目的は、観光振興を推進する上で必要な計画、調査等における基礎的知識を 修得することにある。近年、地域・都市を観光対象とするツーリズムが拡大し、そのマーケティング的対応が急務となっている。それ故、「都市・地域の魅 力特性(attraction)」の分析を通し基礎的知識と分析方法を習得することは有用と考えられる。また、「魅力特性」の分析手法は、持続可能観光など新しいタ イプのツーリズムの分析にも重要と思われる。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。

## 授業目標:

- ① 観光による地域振興の現状・意義・役割を修得する。
- ② テーマ別・地域・形態別の観光振興の手法について修得する。

カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授耒司	当、争削子首・争仮子首、形式		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション	事前:シラバスの確認 事後:ノートを整理して復習	講義 90 分
2	地域振興と観光振興 (1) (成立ちと両者の差異)	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
3	地域振興と観光振興 (2) (観光学の枠組の視点から見た両者の関係性)	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
4	地域振興と観光まちづくり(1):その概念と内容	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
5	地域振興と観光まちづくり(2):その課題(類似性と異質性)	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
6	新しいタイプの地域を観光対象とした観光形態の現在的意味:その分類と特 徴	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
7	地域・都市を観光対象とする観光商品 (1): その概念と構造(Smith(1994))を 中心に	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義40分、 実習40分
8	地域・都市を観光対象とする観光商品 (2): その分析方法の枠組	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
9	地域・都市を観光対象とする観光商品 (3): ワークシートの作成 (中核・支援・ 付加的商品)	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
10	地域・都市を対象とした観光商品の魅力特性(attraction):その特性・分析方法	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義40分、 実習40分
11	地域・都市を対象とした観光商品の魅力特性(attraction):魅力特性の分析方法とその事例(Lew(1987)の三つの視点)	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
12	地域・都市を対象とした観光商品の魅力特性(attraction):魅力特性の分析の 観光振興への援用(SWOT 分析等)	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
13	持続可能観光等、新しいツーリズムの形態への応用と今後の課題	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義40分、 実習40分
14	「地域振興」と「観光振興」の現在:融合と相克をめぐって	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
15	まとめ	事前: 今までの講義の復習 事後: 講義全体の復習	前回の確認10分、講義80分

教本:

参考文献:

毎回資料を配布する。

適時指定する。

# 成績評価の方法、評価基準:

平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

地域振興と観光振興の方法や事例を紹介する。

#### オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域文化史 I (Curtural History of Areas I) 科目分類 専門科目								
担 当 教 員	安倍 宰								
履修条件	前提科目	前提科目 文化人類学などの文化学							
履修条件	その他	なし							

東アジア、とりわけ日本の文化を歴史的な視点から捉えなおすことが、本講義の目的になる。

# 授業目標:

教科書的歴史だけではない歴史を知ること。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	0	

# 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	地域とは何か、地域文化とは何か	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
2	社会構造という考え方	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
3	歴史と構造	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
4	日本の地域文化	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
5	日本の地域文化 2	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
6	沖縄・宮古の地域文化	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
7	沖縄・宮古の地域文化 2	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
8	琉球文化と地域性	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
9	地域文化と盛り場空間 新宿	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
10	地域文化と盛り場空間 新宿 2	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
11	地域文化と盛り場空間 新宿3	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
12	地域文化と盛り場空間 渋谷	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
13	地域文化と盛り場空間 渋谷 2	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
14	地域文化と盛り場空間 渋谷3	事前:なし 事後:復習をする	講義 90分
15	試験あるいはレポート	事前:ノート整理 事後:	試験あるいは レポート

教本: なし 参考文献:

授業中にたくさん紹介します。

成績評価の方法、評価基準:

授業内容への参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。

学生へのアドバイス:

わからないことがあっても、あきらめないこと。

オフィスアワー:

業概要: 前期の地域 業目標: 異なる文化 カリキュラ・ 受業計画、 1 地域	員     安倍 宰       前提科目     文化人類学       その他     なし       改文化史Iをベースに、範囲を拡大し、       ことどのように関係を創り上げていくの       ムマップにおける到達目標(最重要に何知識・技能の習得       回事前学習・事後学習、形式       授業内容及び調       或文化史Iの復習	などの文化学 東南アジアまでを視野に入った。 では関して、自分の視点を打	持つ。	科目分類 <b>専門</b> 学びに向かう力・人		
で 条 業 概要: 前期の地域 ままなる文化 カリキュラ・受業計画、 まま 要要 まま しょう	件 前提科目 文化人類学 その他 なし なく ない	東南アジアまでを視野に入れ のかに関して、自分の視点を打 ◎、重要に○1つ) 思考力・判断力・	持つ。		、間性の涵養	
前期の地域 業目標: 異なる文化 カリキュラ・ 受業計画、 受業 回数	件 その他 なし なし なく でします で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	東南アジアまでを視野に入れ のかに関して、自分の視点を打 ◎、重要に○1つ) 思考力・判断力・	持つ。		、間性の涵養	
受業目標: 異なる文化 カリキュラ・ 受業計画、 <sup>1</sup> 授業 回数 1 地	成文化史 I をベースに、範囲を拡大し、 ととどのように関係を創り上げていくの ムマップにおける到達目標(最重要に 知識・技能の習得 ○ 事前学習・事後学習、形式 授業内容及び 或文化史 I の復習	のかに関して、自分の視点を打	持つ。		、間性の涵養	
前期の地域 受業目標: 異なる文化 カリキュラ・ 受業計画、 投資 関数	なとどのように関係を創り上げていくの ムマップにおける到達目標(最重要に 知識・技能の習得 ○ 事前学習・事後学習、形式 授業内容及び 或文化史Ⅰの復習	のかに関して、自分の視点を打	持つ。		、間性の涵養	
カリキュラ。 受業計画、 <sup>1</sup> 授業 回数 1 地	ムマップにおける到達目標(最重要に 知識・技能の習得 ○ 事前学習・事後学習、形式 授業内容及び 或文化史 I の復習	<ul><li>◎、重要に○1つ)</li><li>思考力・判断力・</li><li>◎</li></ul>			、間性の涵養	
授業 回数 1 地	○ 事前学習・事後学習、形式 授業内容及び 域文化史 I の復習	0	表現力の育成		間性の涵養	
授業 回数 1 地	事前学習・事後学習、形式 授業内容及び 或文化史 I の復習			古法 古公丛证 (丛证50027)		
授業 回数 1 地	授業内容及び 載文化史 I の復習	計画(詳細に記入)		电带 单处加 (水和=mns/		
1 地	或文化史 I の復習	計画(詳細に記入)		事类 事後英國 (英國語 區)	1	
				事前・事後学習(学習課題)	授業形態	
2 東	南アジアの地域性			事前: なし 事後: 復習をする	講義 90分	
		東南アジアの地域性				
3 大	<b>幸の文化</b> 		事前:なし     事後:復習をする       事故:なり			
4 大	<b>峚の文化 2</b> 		事前:なし 事後:復習をする 事前:なし			
	<b>奉の文化</b> 3		事後:復習をする 講教			
	奥部の文化  ウオの大仏 O		手説: 60 (表): 復習をする (事前: なし	講義 90分		
	奥部の文化 2  奥部の文化 3			事後:復習をする  事前:なし	講義 90分 講義 90分 講義 90分	
	<sup>典品の</sup> スにる  文化接触と地域文化			事後:復習をする 事前:なし	講義 90分	
	マルス (15 )			事後:復習をする 	講義 90分	
11 地	或文化と政策			事後:復習をする  事前:なし 事後:復習をする	講義 90分	
12 地址	或文化と政策 2			事 ( ) ( ) 事 ( ) 事 ( ) まで ( ) を ( ) まず ( )		
13 地均	或文化と政策 3		事前:なし 事後:復習をする 講講			
14 地址	或と歴史		事前:なし       講:         事後:復習をする       講:			
15 試	· ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		事前:ノート整理 事後:	試験あるい レポート		
放本: なし			参考文献: 授業中に	たくさん紹介します。		
	万法、評価基準: への参加状況等(50%)、小テスト・レ	ポート等 (20%)、定期試験	(30%) 等で総合評	価する。		

オフィスアワー: 初回講義日に伝える。

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	地域文化論(F	地域文化論(Regional Cultures)						専門科目	
担当教員	小林 克								
履修条件	前提科目	なし							
限 修 朱 叶	その他	なし							

多様な地域文化の捉え方を理解し、様々な地域文化の構成要素である文化資源の保存と活用事例を学んでいく。その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等を理解する。実際に皆さんが住む地域の文化資源をどのようにリストアップするか学び、活用方法を自分たちで考える。地域文化の保護と活用、活性化の手段について学ぶ。

#### 授業目標:

地域文化の発見とその発信について基礎的な方法を身につける。

地域文化の多様性を学び、ベースとなる文化資源を掘り起こし活性化させる事で、観光資源としても有効であることを理解する。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

仅未引	ス末計画、						
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態				
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。地域文化論を学ぶことの意義	事前:地域、文化の意味を調べる。 事後:配布資料の内容確認	講義(70分)、 アンケート(20分)				
2	地域、文化の捉え方。地域文化の構成要素である伝統文化、歴史、民	事前:地域文化とは何か、自分で考える。	講義(80分)、				
	俗、景観等と文化資源について	事後:配布資料の内容確認	小テスト(10分)				
3	国、地方自治体の地域文化活性化の方針と政策。景観法や文化財保	事前:居住する自治体の HP を検索する。	講義(80分)、				
	護法の重伝建築地区、文化的景観等	事後:配布資料の内容確認	小テスト(10分)				
4	地域文化の保存と活性化① 重要伝統的建造物群と文化的景観について	事前:授業タイトルの用語を調べる。 事後:配布資料の内容確認	講義(80分)、 小テスト(10分)				
5	地域文化の保存と活性化② 文化芸術振興基本法と地方自治体の取り組み	事前:文化芸術振興法について調べる。 事後:配布資料の内容確認	講義(80分)、 小テスト(10分)				
6	地域の文化資源の発見とリスト化① それぞれの住む地域での文化	事前:自分の住む地域の広報物を収集。	講義(50分)、				
	資源の発見とリスト化の方法を学ぶ	事後:発表為の調査と資料作成	演習(40分)				
7	地域文化の保存と活性化③ 都市の地域文化と創造都市論による街	事前:創造都市論とは何か調べる。	講義(80分)、				
	おこし	事後:配布資料の内容確認	小テスト(10分)				
8	地域文化と企業 地域文化と地方の企業との関係について事例を見	事前:地方企業の CSR 等を検索する。	講義(70分)、				
	ながら解説	事後:配布資料の内容確認	ディスカッション(20分)				
9	地域の文化資源の発見とリスト化② 学生による発表とディスカッ ション	事前:資料作成、発表準備。 事後:配布資料の内容確認	演習 (90 分)				
10	様々な地域文化① 日本の地域文化 山村、漁村 特に伊豆諸島の	事前:伊豆諸島の位置と現状を検索。	講義(30分)、				
	伝統文化について	事後:配布資料の内容確認	ディスカッション(60分)				
11	地域文化の価値評価。文化資源としての価値評価。そして観光資源	事前:文化資源、観光資源の関係を調べる。	講義(70分)、				
	としての評価	事後:配布資料の内容確認	ディスカッション(20分)				
12	地域における様々な文化資源の活用と観光 遺跡、史跡、名勝。人、	事前: 観光における文化資源の活用を検索。	講義(80分)、				
	組織、史跡など	事後: 配布資料の内容確認	小テスト(10分)				
13	様々な地域文化② 世界の地域文化と特性 風土と住居、生活文化。	事前:オランダと台湾について検索する。	講義(70分)、				
	各地の事例・オランダ、台湾等	事後:配布資料の内容確認	小レポート作成(20分)				
14	地域文化の情報発信。情報発信の具体的な方法を学び、その必要性	事前:居住する地域の広報戦略を考える。	講義(80分)、				
	について理解する	事後:配布資料の内容確認	小テスト(10分)				
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。	事前:授業全体を振り返る。 事後:配布資料の内容確認	講義(45分)、 デスカッション(45分)				

# 教本:

参考文献:

特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。

その都度提示します。

#### 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。

# 学生へのアドバイス:

毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。住んでいる地域の伝統文化とは何か、興味を持ってください。

# オフィスアワー:

開講年次	<b>2 年次 半期</b> 選択・	・必修 選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域文化論(Regional	Cultures)				科目分類	専門科目	
担当教員	福島 崇宏							
履修条件	前提科目なし							
腹   廖 宋 十	その他 なし							

グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動をすることが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。

#### 授業目標:

- 1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。
- 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

<b>授業計</b>	<b>■、</b> 争則字智・争俊字省、形式		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	授業概要の説明 ◇地域文化論の全体像を概観する。	事前: 教本 pp.1~3精読 事後: まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。	事前: 教本 pp.3~9精読 事後: まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史~中国少数民族の生活を知る。	事前: 教本 pp. 236~242精読 事後: まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化~文明の衝突を理解する。	事前:教本 pp.11~16精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
5	文 化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。	事前:教本 pp. 16~19精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
6	コミュニケーション ① コミュニケーション能力と寛容性の理解を深める。	事前: 教本 pp. 19~24精読 事後: まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
7	コミュニケーション ② 想像/創造する力の可能性をともに考える。	事前: 教本 pp. 24~31精読 事後: まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
8	言 語 ① 英語帝国主義~日本人はなぜ英語が話せないのか。	事前:教本 pp. 108~117精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
9	言 語 ② 国家と標準語・方言との関係を考える。	事前:教本 pp.117~134精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
10	非言語 ① 非言語メッセージとステレオタイプの関係を考える。	事前:教本 pp.135~144精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
11	非言語 ② 沈黙の意味~日本人と以心伝心との関係を考える。	事前:教本 pp. 144~152精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
12	時間・空間-記憶と忘却との関係性について、東日本大震災を基に議論を深める。	事前: 教本 pp.152~157精読 事後: まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
13	発展学習 ① 生物多様性と文化とのかかわりを考える。	事前:事前配布物の精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
14	発展学習 ② 建築と文化とのかかわりを考える。	事前:事前配布物の精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
15	まとめ ・地域文化論の内容を総括し、議論を深める。	事前:これまでのノート復習 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分

# 教本:

参考文献:

石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション 一多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。 授業中に適宜紹介する。

# 成績評価の方法、評価基準:

授業中に課す小レポート(40%)、及び期末試験(60%)で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。

# オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	地域文化論 I	(Regional Cultu	res I)				科目分類	専門科目	
担当教員	小林 克								
履修条件	前提科目	なし							
腹   廖 朱   円	その他	なし							

多様な地域文化の捉え方を理解し、様々な地域文化の構成要素である文化資源の保存と活用事例を学んでいく。その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等を理解する。実際に皆さんが住む地域の文化資源をどのようにリストアップするか学び、活用方法を自分たちで考える。地域文化の保護と活用、活性化の手段について学ぶ。

#### 授業目標:

地域文化の発見とその発信について基礎的な方法を身につける。

地域文化の多様性を学び、ベースとなる文化資源を掘り起こし活性化させる事で、観光資源としても有効であることを理解する。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

# 授業計画、事前学習・事後学習、形式

<b>授業計</b>	一、事則字質・事後字質、形式		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。地域文化論を学ぶことの意義	事前:地域、文化の意味を調べる 事後:配布資料の内容確認	講義(70分)、 アンケート(20分)
2	地域、文化の捉え方。地域文化の構成要素である伝統文化、歴史、民	事前:地域文化とは何か、自分で考える	講義(80分)、
	俗、景観等と文化資源について	事後:配布資料の内容確認	小テスト(10分)
3	国、地方自治体の地域文化活性化の方針と政策。景観法や文化財保	事前:居住する自治体の HP を検索する。	講義(80分)、
	護法の重伝建築地区、文化的景観等	事後:配布資料の内容確認	小テスト(10分)
4	地域文化の保存と活性化① 重要伝統的建造物群と文化的景観について	事前:授業タイトルの用語を調べる。 事後:配布資料の内容確認	講義(80分)、 小テスト(10分)
5	地域文化の保存と活性化② 文化芸術振興基本法と地方自治体の取り組み	事前:文化芸術振興法について調べる 事後:配布資料の内容確認	講義(80分)、 小テスト(10分)
6	地域の文化資源の発見とリスト化①。それぞれの住む地域での文化	事前:自分の住む地域の広報物を収集	講義(50分)、
	資源の発見とリスト化の方法を学ぶ	事後:発表為の調査と資料作成	演習(40分)
7	地域文化の保存と活性化③ 都市の地域文化と創造都市論による街	事前:創造都市論とは何か調べる	講義(80分)、
	おこし	事後:配布資料の内容確認	小テスト(10分)
8	地域文化と企業 地域文化と地方の企業との関係について事例を見	事前:地方企業の CSR 等を検索する。	講義(70分)、
	ながら解説	事後:配布資料の内容確認	ディスカッション(20分)
9	地域の文化資源の発見とリスト化②。学生による発表とディスカッ ション	事前:資料作成、発表準備 事後:配布資料の内容確認	演習(90分)
10	様々な地域文化① 日本の地域文化 山村、漁村 特に伊豆諸島の	事前:伊豆諸島の位置と現状を検索	講義(30分)、
	伝統文化について	事後:配布資料の内容確認	ディスカッション(60分)、
11	地域文化の価値評価。文化資源としての価値評価。そして観光資源	事前:文化資源、観光資源の関係を調べる。	講義(70分)、
	としての評価	事後:配布資料の内容確認	ディスカッション(20分)
12	地域における様々な文化資源の活用と観光 遺跡、史跡、名勝。人、	事前:観光における文化資源の活用を検索	講義(80分)、
	組織、史跡など	事後:配布資料の内容確認	小テスト(10分)
13	様々な地域文化② 世界の地域文化と特性 風土と住居、生活文化。	事前:オランダと台湾について検索する。	講義(70分)、
	各地の事例・オランダ、台湾等	事後:配布資料の内容確認	小レポート作成(20分)
14	地域文化の情報発信。情報発信の具体的な方法を学び、その必要性	事前:居住する地域の広報戦略を考える。	講義(80分)、
	について理解する	事後:配布資料の内容確認	小テスト(10分)
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。	事前:授業全体を振り返る。 事後:配布資料の内容確認	講義(45分)、 デスカッション(45分)

# 教本:

参考文献:

特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。

その都度提示します。

# 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。

# 学生へのアドバイス:

毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。住んでいる地域の伝統文化とは何か、興味を持ってください。

# オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期 選択・	必修 選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域文化論 I (Regional Cultures I) 科目分類 専門科目							
担 当 教 員	福島 崇宏							
履修条件	前提科目なし							
腹修朱件	その他 なし							

グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動をすることが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。

#### 授業目標:

- 1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。
- 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	$\circ$	

# 授業計画、事前学習·事後学習、形式

权未引	四、尹則子自·尹恢子自、ル式 		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	授業概要の説明 ◇地域文化論 I の全体像を概観する。	事前: 教本 pp.1~3精読 事後: まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。	事前:教本 pp.3~9精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史~中国少数民族の生活を知る。	事前:教本 pp.236~242精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化~文明の衝突を理解する。	事前:教本 pp.11~16精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
5	文 化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。	事前:教本 pp.16~19精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
6	コミュニケーション ① コミュニケーション能力と寛容性の理解を深める。	事前: 教本 pp. 19~24精読 事後: まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
7	コミュニケーション ② 想像/創造する力の可能性をともに考える。	事前:教本 pp.24~31精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
8	言 語 ① 英語帝国主義~日本人はなぜ英語が話せないのか。	事前:教本 pp. 108~117精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
9	言 語 ② 国家と標準語・方言との関係を考える。	事前:教本 pp.117~134精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
10	非言語 ① 非言語メッセージとステレオタイプの関係を考える。	事前:教本 pp.135~144精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
11	非言語 ② 沈黙の意味~日本人と以心伝心との関係を考える。	事前:教本 pp. 144~152精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
12	時間・空間-記憶と忘却との関係性について、東日本大震災を基に議論を深める。	事前:教本 pp. 152~157精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
13	発展学習 ① 生物多様性と文化とのかかわりを考える。	事前:事前配布物の精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
14	発展学習 ② 建築と文化とのかかわりを考える。	事前:事前配布物の精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
15	まとめ ・地域文化論Ⅰの内容を総括し、議論を深める。	事前:これまでのノート復習 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分

# 教本:

参考文献:

石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション 一多文化共生と平和構築に向けて』 有斐閣、2013年。 授業中に適宜紹介する。

# 成績評価の方法、評価基準:

授業中に課す小レポート (40%)、及び期末試験 (60%) で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。

# オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	地域文化論 II (Regional Cultures II )							専門科目	
担当教員	小林 克								
履修条件	前提科目	地域文化論 I							
腹   廖 宋   针	その他	なし							

様々な地域文化の構成要素である多様な文化資源の関係性を学んでいく。地域文化の捉え方を理解し、その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等をどのように活用することが出来るのか考える。実際の地域文化による地域活性化事例を確認して、分析する。

#### 授業目標:

地域文化とは何かを考察し、その様々な構成要素である各種資源ついて、その活性化と活用方法を学ぶ。 地域文化のベースとなる多種多様な文化等の資源の関係性を明らかにし、環境(文化)クラスターとしての保存と活性化を理解する。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
	©	0

## 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。	事前:地域、文化の意味を調べる。 事後:配布資料の内容確認	講義(60分)、 アンケート(30分)
2	地域と文化の多様な捉え方について考える。地域文化の資源である伝 統文化、歴史、民俗、景観等との関係性について	事前:地域文化とは何か、自分で考える。 事後:配布資料の内容確認	講義(70分)、 小テスト(20分)
3	日本の地域文化の特性を、世界の中で比較しつつ考察する。	事前:居住する自治体のHPを検索する。 事後:配布資料の内容確認	講義(70分)、 小テスト(20分)
4	地域文化と構成資源① 地域文化と地域の食文化の関係	事前:食文化について調べる。 事後:配布資料の内容確認	講義(70分)、 ディスカッション(20分)
5	地域文化と構成資源② 地域文化と地域の歴史、地域の人との関係性	事前:地域史の調べ方について調べる。 事後:配布資料の内容確認	講義(50分)、 小テスト(40分)
6	地域文化と構成資源③ 地域文化と自然や風土との関係性	事前:風土という言葉を調べる。 事後:配布資料の内容確認	講義(50分)、 小テスト(40分)
7	地域文化と構成資源④ 地域文化と鉄道などの交通や近代産業、伝統 的産業や民俗、宗教との関係性	事前:日本における鉄道の歴史を調べる。 事後:配布資料の内容確認	講義(70分)、 ディスカッション(20分)
8	地域文化の事例研究① 関東地方を中心に様々な地域文化の事例についてみていく。学生が地域文化事例を調査研究する地域を検討する。	事前:関東地方の地図を確認 事後:対象地域を調べて決める。	講義(70分)、 ディスカッション(20分)
9	地域文化の事例研究② 学生が地域文化事例を調査研究する地域を決めて調査に着手する。	事前:資料作成、発表準備 事後:配布資料の内容確認	講義(20分)、演習(70分)
10	地域文化の事例研究③ 都市東京の中での伝統文化の捉え方と事例を 説明。	事前:東京の地図をみて位置関係を確認 事後:配布資料の内容確認	講義(60分)、 ディスカッション(30分)
11	地域文化の事例研究④ 新潟県十日町を中心とした地域の事例につい て説明	事前:十日町市についてネットで調べる。 事後:配布資料の内容確認	講義(70分)、 ディスカッション(20分)
12	調査・研究発表① 学生が事例研究について発表。	事前:報告準備 事後:発表に関する評価とコメント作成	報告(60分)、討論(30分)
13	調査・研究発表② 学生が事例研究について発表	事前:報告準備 事後:発表に関する評価とコメント作成	報告(60分)、討論(30分)
14	調査・研究発表③ 学生が事例研究について発表	事前:報告準備 事後:発表に関する評価とコメント作成	報告(40分)、討論(30分)、 講評(20分)
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。	事前:授業全体を振り返る。 事後:配布資料の内容確認	講義(45分)、 デスカッション(45分)

## 教本:

参考文献:

特にありません。多くの回で資料プリントを配布します。

その都度提示します。

# 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

授業参加状況(発表や配布資料含)等(40%)、小テスト・レポート等(30%)、試験(30%)等で総合評価する。

# オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域文化論 II (Regional Cultures II ) 科目分類 専門科目								
担当教員	福島 崇宏								
履修条件	前提科目 地域文化論 I								
腹   廖 宋   针	その他	なし							

グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動をすることが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。

#### 授業目標:

- 1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。
- 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

1人木川	到、	Ţ.	
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	授業概要の説明 ◇地域文化論Ⅱの全体像を概観する。	事前:シラバス精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
2	異空間としてのメディア ① 現代の映像メディアと文化とのかかわりを考える。	事前:教本 pp.83~95精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
3	異空間としてのメディア ② メディアと権力~メディアが世界を変えるのだろうか。	事前:教本 pp.95~108精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
4	メディアと文化 ① グローバル社会とメディア文化について検討する。	事前:教本 pp.37~50精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
5	メディアと文化 ② 戦争の記憶、記憶の戦争について理解を深める。	事前:教本 pp.50~59精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
6	異文化接触 ①「カルチャーショック」と適応について事例を検討する。	事前:教本 pp.61~90精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
7	異文化接触 ② アイデンティティと「他者」~自分探しの意味を考える。	事前:教本 pp.90~108精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
8	文化のポリティクス 現実はつくられる〜アフリカと貧困・開発問題を知る。	事前:教本 pp.159~169精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
9	グローバリゼーションの行方 ① グローバル化と格差社会〜貨幣と文化の関係を知る。	事前:教本 pp.181~188精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
10	グローバリゼーションの行方 ② 画一化されない食文化とはどのようなものか考える。	事前:教本 pp.189~192精読 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分
11	グローバリゼーションの行方 ③ オルタナティブな世界の構築に向けて何ができるか。	事前:教本 pp. 192~205精読 事後:まとめノートの作成	報告 60分、討論 30分
12	研究発表 1 ・これまでの学びの成果を発表する。	事前:報告準備 事後:発表評価表の作成	報告 60分、討論 30分
13	研究発表 2 ・これまでの学びの成果を発表する。	事前:報告準備 事後:発表評価表の作成	報告 60分、討論 30分
14	研究発表3 ・これまでの学びの成果を発表する。	事前:報告準備 事後:発表評価表の作成	報告 60分、討論 30分
15	まとめ ・地域文化論Ⅱの総括とともに議論を深める。	事前:これまでの復習 事後:まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分

## 教本:

参考文献:

石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション 一多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。 授業中に適宜紹介する。

# 成績評価の方法、評価基準:

授業中の小レポート (40%) 及び期末試験 (60%) で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。

# オフィスアワー:

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	着地型・発地型観光論 I (Alternative Tourism and Mass Tourism I) 科目分類 専門科目								
担 当 教 員	大井 功								
履修条件	前提科目	なし							
腹啄木片	*** その他 なし								

映像でイメージを掴み、着地型観光の特性を理解した上でメリットとデメリットを討議。

## 授業目標:

着地型観光の特性を活かした観光プランが作成できる。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

权未引	回、尹則子自・尹恢子自、ルス		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション	事前:なし 事後:配布プリントを読返す	講義 90分
2	地域はなぜ観光に向かうのか:観光による地域おこしについて考察し、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
3	着地型観光と地域資源:地域のオンリーワンの観光資源を探し出し、ブラッシュアップし、発表する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
4	着地型観光の事業主体:地域の観光の運営主体は誰かについて考察し、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
5	着地型観光の商品企画:実際に商品企画をしてみて、行程、販売価格、販売対象などを 考え、発表する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
6	着地型観光の流通・販売:地域の観光資源をどのように販売したら良いか考え、発表する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
7	着地型観光における住民の役割:観光による地域振興における住民の果たす役割について考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
8	体験交流型観光:体験型観光の重要性について考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
9	ニューツーリズム開発:持続可能な観光について考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
10	エコツーリズム:エゴツーリズムに変わってしまわないようにする方策を考え、討議 する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
11	放射線の効用:放射線のホルミシスについて考察し、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
12	温泉文化:体に良い温泉、体に悪い温泉を考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
13	嗜好品文化:世界各国の嗜好品について考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
14	食の安心・安全:危険な食とは何かについて考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
15	ディズニーランド:ディズニーランドのリピーターが多い理由を考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分

# 教本:

参考文献:

プリントを配布する

尾家建生他著「これでわかる着地型観光」田畑書店 ¥1,500+税 浜田篤郎著「伝説の海外旅行」田畑書店 ¥1,500+税

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 平常点(授業参加度、小テスト等)(40%)、定期試験(60%)等

# 学生へのアドバイス:

楽しくなければ観光は学べない。

# オフィスアワー:

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	着地型・発地型観光論 II (Alternative Tourism and Mass Tourism II ) 科目分類 専門科目								
担当教員	大井 功								
履修条件	前提科目 着地型・発地型観光論 I を同時履修か、過去に履修したことがある。								
限 修 朱 计	その他	その他 なし							

映像によりイメージを掴み、発地型観光の多様な形態を学び、そのメリットとデメリットを討議する。

## 授業目標:

発地型観光の特性を活かした観光プランが作成できる。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

# 授業計画、事前学習・事後学習、形式

122/041			
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	海外旅行の基礎(I): 3レターコードにより、航空会社や都市名を表示する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
2	海外旅行の基礎(II):時差や国際便の航空機の飛行時間の計算方法を理解し、問題を 解く。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
3	食 旅:安全・安心の食、危険な食、地産地消などを考察し、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
4	祭 旅:祭りによる町おこしを考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
5	産業観光:産業観光を活用した地域振興の方法を考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
6	スポーツ・ヘルス・ツーリズム:スポーツを活用した観光や健康づくりを考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
7	メディカル・ツーリズム:医療を目的とした観光振興の是非について考察し、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
8	肉食文化:肉食文化と穀物文化を比較し、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
9	航空機のなぞ:ジェット燃料とは何か、ジャンボジェット機はなぜ、姿を消したのかなどについて考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
10	カジノミクス:総合レジャー施設建設に伴うメリット、デメリットを考察し、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
11	ホテル利用法:国際ホテルの利用方法を考え、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
12	エアライン・クライシス: 航空会社経営環境の変化に伴う営業戦略の変化を考察し、討 議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
13	旅行の健康管理:旅行に伴う体調の変化と病を考察し、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
14	海外旅行犯罪:海外旅行で遭遇する犯罪と被害に遭わないための方策を考え、討議す る。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
15	麻薬文化:麻薬に対する厳罰国と容認国の考え方の違いを考察し、討議する。	事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、映像 20分、 討議 20分
		事後:配布フリントを読返す	討議 20分

# 教本:

参考文献:

プリントを配布する。

尾家建生他著「これでわかる着地型観光」田畑書店 ¥1,500+税 浜田篤郎著「伝説の海外旅行」田畑書店 ¥1,500+税

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 平常点(授業参加度、小テスト等)(40%)、定期試験(60%)等

# 学生へのアドバイス:

楽しくなければ観光は学べない。

# オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語 I (Chi	中国語 I (Chinese I)							
担当教員	沈瑛	沈瑛							
履修条件	前提科目	前提科目なし							
腹   形 宋 計	条 件 そ の 他 <b>なし</b>								

本講義では中国語の発音から初めて、正しい発音の仕方を身につけるようにしていきます。そして、中国語の日常会話を中心とする簡単な挨拶や会話を 学びます。

## 授業目標:

- 1. 中国への関心を高める。
- 2. 発音・文法の初歩から初めて、中国語の基礎を理解する。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

技术司	回、尹則子自・尹恢子自、ルス		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション:講義の概要と中国語の学び方	事前:特になし 事後:テキストの精読	講義
2	発音	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
3	教科書第1課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
4	教科書第1課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
5	教科書第2課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
6	教科書第2課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
7	復習(ミニテスト①)	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	テストと解説
8	教科書第3課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表20分
9	教科書第4課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
10	教科書第4課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
11	教科書第5課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
12	教科書第5課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
13	教科書第6課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
14	復習 (ミニテスト②)	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	テストと解説
15	全体のまとめ	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 20分、ディスカッ ション 30分、発表 40分

# 教本:

参考文献:

『《改訂版》さあ、中国語を学ぼう一会話・講読一』竹島毅・趙昕著(白水社出版) なし。 税別 ¥2,400、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (50%)、定期試験 (10%) 等で総合評価します。

# 学生へのアドバイス:

外国語の学習には基本的な文法などを理解すること、基本的な語彙を覚えるという過程があります。予習・復習を必ず行ってください。

# オフィスアワー:

開講年次	1 年次 半期 選択	・必修 選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語 I (Chinese I)	)	科目分類	基礎科目				
担当教員	但 継紅							
履修条件	前提科目なし							
腹形朱叶	その他 なし							

中国語の基礎を習得するためのクラスである。中国語を正しく発音でき、同時に正確に聞き取れるように訓練する。その上、基礎的な文法を学び、会話練習や作文などを平行して行うことを通じて中国語の基礎コミュニケーション力を高める。

# 授業目標:

中国語発音の基礎(ピンイン)、初級文法、簡単な日常会話(挨拶、自己紹介など)を身に付けることを目標とする。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©		0

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

<b>授業計</b>	<b>町、事則字智・事後字智、形式</b>		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ガイダンス 発音①:声調	事前:シラバスを確認 事後:CD を聞き、発音練習	ガイダンス 20分、講義 20分、ディス カッション 20分、質疑応答 30分
2	発音②:単母音 複母音	事前:CD を聞き、発音練習 事後:CD を聞き、発音練習	講義 40分、発音指導・練習 30分、 個人指導 20分
3	発音③:無気音と有気音 そり舌音	事前:CD を聞き、発音練習 事後:CD を聞き、発音練習	講義 40分、発音指導・練習 30分、 個人指導 20分
4	発音④:鼻音を伴う母音など声調変化 あいさつの言葉	事前:CDを聞き、発音練習 事後:あいさつの言葉を覚える	講義 40分、発音指導・練習 30分、 個人指導 20分
5	名前の言い方 決まり文句	事前:自分の名前を調べる 事後:復習、単語を覚える。	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
6	人称代詞 "是"、"吗"疑問文 人称代名詞+"呢"など	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
7	復習・発音と会話の練習	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 20分、復習・会話・練習 50分、 答え合わせ・質問応答 20分
8	中間テスト	事前:復習 事後:復習、単語文を覚える	復習 20分、中間テスト 50分、 説明・質問応答 20分
9	動詞述語文 指示代詞	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
10	"的"の省略 形容詞述語文	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
11	所有を表す"有/没有" 数詞 量詞 家族呼称	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
12	会話・練習・復習	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 20分、復習・会話・練習 50分、 答え合わせ・質問応答 20分
13	文末の"了" 名詞述語文 比較文"比" 年月日の言い方	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
14	曜日の言い方 時間詞 推量の"吧"	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
15	総復習	事前:復習、単語文を覚える 事後:復習、単語文を覚える	講義(復習・説明)30分、発音・練習 30分、質問応答 30分

教本:

参考文献:

『ぼくのせんせい』相原茂 郭雲輝 著 朝日出版社

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

授業への参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

外国語を習うには、楽しい気持ちを持つことがとても大事、先生とクラスのみなさんと一緒に、楽しく学びましょう。 中国語の発音は難しいのは先入観だけです。授業は、わかり易く行うことを工夫します。常に復習しながら進めます。

# オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語 I (Ch	inese I)		科目分類	基礎科目				
担 当 教 員	仲 伯維								
履修条件	前提科目	なし							
履 廖 采 针	その他	なし							

中国語を学ぶ上で、発音が難しいことはよく知られているが、「文法の体系がよくわからない」、「どう表現すれば正しいのか」という声もよく聞かれている。本授業はこうしたことを考慮し、できるだけ丁寧に解説する。

#### 授業目標:

語学力を磨き、簡単な会話でも良いので、コミュニケーション力をつけると知識を理解し、学んだ日常短文を生かしてたくさんの人と会話して、気持ち を理解し合う。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

1人木口	型、		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 中国語とは,中国語の特徴,学習方法	事前:なし 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
2	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) ピンイン(拼音),発音。選択疑問語	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
3	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 「是」の文	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
4	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 「的」の用法、疑問詞、疑問文	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
5	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 「所有」を表す「有」	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
6	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 指示代名詞	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
7	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 数字、日付の数え方	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
8	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 完了の表現	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
9	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 反複疑問文	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
10	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 時間量の表示方法	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
11	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 過去の経験を表す表現	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
12	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 「是・・・的」文の表現	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
13	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) しにくる、しに行くの表現	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
14	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞(10分) 自己紹介文の作成	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
15	全体のまとめ	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
1			

# 教本:

参考文献:

竹島金吾等(著)『中国語はじめの一歩』白水社最新版

山下輝彦『中国語入門』白水社

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(10%)、定期試験(50%)等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

言葉は歌のようなもので、まず聞いて、真似て見ることから始める。知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。

# オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語 II (Chinese II ) 科目分類 <b>基礎科目</b>								
担当教員	沈 瑛								
履修条件	前提科目 中国語 I を履修していること。								
腹   豚 衆 計	その他	なし							

中国語は発音が大事です。中国語コミュニケーション I で学んだ発音を確認した後、 I で学習した内容をベースに基礎的な文法を学びつつ、単語の知識を増やしていきます。大学で留学生との日常会話ができるような力を身につけていきます。

#### 授業目標:

- 1. 基礎的な文法を学習する。
- 2. 日常の会話力、リスニング力の習得を目指す。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

1又未日	四、事刑于日 事权于日、ル八		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション:講義の概要	事前:特になし 事後:テキストの精読	講義
2	発音	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
3	教科書第7課	事前: テキストの精読 事後: テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
4	教科書第8課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
5	教科書第8課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
6	教科書第9課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
7	教科書第9課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
8	復習(ミニテスト①)	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	テストと解説
9	教科書第10課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
10	教科書第11課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
11	教科書第11課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
12	教科書第12課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
13	教科書第12課	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 50分、ディスカッ ション 20分、発表 20分
14	復習(ミニテスト②)	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	テストと解説
15	全体のまとめ	事前:テキストの精読 事後:テキストの精読	講義 20分、ディスカッ ション 30分、発表 40分

## 教本:

参考文献:

『《改訂版》さあ、中国語を学ぼう一会話・講読一』竹島毅・趙昕著(白水社出版) なし。 税別 ¥2,400、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(50%)、定期試験(10%)等で総合評価します。

# 学生へのアドバイス:

単語を覚えることと共に、外国語は積極的に話すことが大事です。特に会話に力点を置いてあります。自ら考えて話すことが大切です。

# オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語 II (Chinese II ) 科目分類 基礎科目								
担当教員	但 継紅	但 継紅							
履修条件	前提科目	前提科目 中国語 I 履修済みを前提とする。							
履 廖 朱 叶	その他	なし							

中国語 I の基礎を習得した受講者のための初級クラスである。中国語を正しく発音でき、同時に正確に聞き取れるように訓練する。その上、基礎的な文法を学び、会話練習や作文などを平行して行うことを通じて中国語の基礎コミュニケーション力を高める。

# 授業目標:

中国語発音の基礎(ピンイン)、初級文法、簡単な日常会話(挨拶、自己紹介など)を身に付けることを目標とする。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©		0

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

1人人口	可、 于 的 丁 日		
授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ガイダンス 基礎内容の復習	事前:シラバスを確認 事後:CD を聞き、発音練習	ガイダンス 20分、講義 20分、ディス カッション 20分、質疑応答 30分
2	時刻の言い方 指示詞 特定のモノ(ヒト)+在+場所など	事前:CD を聞き、発音練習 事後:CD を聞き、発音練習	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
3	動詞+"了"程度副詞:"挺"、"很"、"非常"	事前:CD を聞き、発音練習 事後:CD を聞き、発音練習	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
4	会話・練習・復習	事前:CDを聞き、発音練習 事後:あいさつの言葉を覚える	講義 20分、復習・会話・練習 50分、 答え合わせ・質問応答 20分
5	"喜欢" + V P 動詞 + "过"など	事前:自分の名前を調べる 事後:復習、単語を覚える。	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
6	助動詞"会"、"能" 動詞の重ね型 様態補語など	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
7	復習・発音と会話の練習	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 20分、復習・会話・練習 50分、 答え合わせ・質問応答 20分
8	中間テスト	事前:復習 事後:復習、単語文を覚える	復習 20分、中間テスト 50分、 説明・質問応答 20分
9	助動詞 想、打算 連動文 方向補語など	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
10	反復疑問文 選択疑問文 主述述語文 身長の言い方	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
11	"跟"、"和"、"给"結果補語など	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
12	会話・練習・復習	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 20分、復習・会話・練習 50分、 答え合わせ・質問応答 20分
13	可能補語 値段の聞き方 "是~的" など	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
14	"把"構文 動詞+"着"など	事前:CD を聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分
15	総復習	事前:復習、単語文を覚える 事後:復習、単語文を覚える	講義(復習・説明)30分、発音・練習30分、質問応答30分
1			

## 教本:

参考文献:

『ほくのせんせい』 相原茂 郭雲輝 著 朝日出版社

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

授業への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

外国語を習うには、楽しい気持ちを持つことがとても大事、先生とクラスのみなさんと一緒に、楽しく学びましょう。 中国語の発音は難しいのは先入観だけです。授業は、わかり易く行うことを工夫します。常に復習しながら進めます。

# オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語 II (Chi	中国語 II (Chinese II ) 科目分類 基礎科目							
担当教員	仲 伯維								
履修条件	前提科目 中国語I履修済みを前提とする。								
履修条件	その他	なし							

中国語を学ぶ上で、発音が難しいことはよく知られているが、「文法の体系がよくわからない」、「どう表現すれば正しいのか」という声もよく聞かれている。本授業はこうしたことを考慮し、できるだけ丁寧に解説する。

#### 授業目標:

語学力を磨き、簡単な会話でも良いので、コミュニケーション力をつけると知識を理解し、学んだ日常短文を生かしてたくさんの人と会話して、気持ち を理解し合う。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

汉水山			
授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 中国語とは,中国語の特徴,学習方法	事前:なし 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
2	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) ピンイン(拼音),発音。選択疑問語	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
3	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 回数補語	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
4	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 比較表現	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
5	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 能願動詞「会」,「能」	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
6	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 能願動詞「想」,「要」	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
7	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 方向補語	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
8	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 結果補語	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
9	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 受身	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
10	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 使役	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
11	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 二重主語	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
12	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 「就」、「才」の区別	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
13	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 「有・没有」の使用	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
14	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 自己紹介文の作成	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
15	全体のまとめ	事前:予習 事後:ノート整理して復習	講義 50分/演習 40分
11 12 13	使役 「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 二重主語 「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 「就」、「才」の区別 「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 「有・没有」の使用 「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞(10分) 自己紹介文の作成	事後: ノート整理して復習 事前: 予習 事後: ノート整理して復習 事前: 予習 事後: ノート整理して復習 事前: 予習 事後: ノート整理して復習 事前: 予習 事後: ノート整理して復習 事前: 予習	講義 50分/演習講義 50分/演習講義 50分/演習講義 50分/演習講義 50分/演習

# 教本:

参考文献:

『しっかり 初級 中国語』白水社

山下輝彦『中国語入門』白水社 最新版

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(10%)、定期試験(50%)等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

言葉は歌のようなもので、まず聞いて、真似て見ることから始める。知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。

# オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中国語コミュニケーション(Chinese Communication) 科目分類 専門科目								
担当教員	但 継紅	但 継紅							
履修条件	前提科目 中国語Ⅰ、Ⅱ履修済みが望ましい								
版   家 宋   計	その他	なし							

基本的な文法・文型を整理しながら、平易な中国語文が正確に作れるように、会話体・文章体の両面から指導する。読む・聞く・話す・書くことの指導を段階的に進めていく。より楽しく中国語を勉強ができることで、中国語のプレゼン能力を高める。

# 授業目標:

中国語の長文読解の応用力を養うことや、中国語を通して、中国の文化についての理解もより深くなることを目指す。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		
	©	0		

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

投業計	計画、事則字質・事後字質、形式						
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態				
1	ガイダンス、基礎内容の確認	事前:シラバスを確認 事後:CDを聞き、本文朗読	ガイダンス 20分、講義 20分、ディス カッション 20分、質疑応答 30分				
2	教科書の第一課①	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分				
3	教科書の第一課②	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 30分、発音・練習 45分、 ディスカッション 15分				
4	教科書の第二課①	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分				
5	教科書の第二課②	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 30分、発音・練習 45分、 ディスカッション 15分				
6	復習・練習・応用会話	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 20分、復習・会話・練習 50分、 答え合わせ・質問応答 20分				
7	教科書の第三課①	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 30分、発音・練習 45分、 ディスカッション 15分				
8	教科書の第三課②	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分				
9	教科書の第四課①	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 30分、発音・練習 45分、 ディスカッション 15分				
10	教科書の第四課②	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分				
11	復習・練習・応用会話	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 20分、復習・会話・練習 50分、 答え合わせ・質問応答 20分				
12	教科書の第五課①	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分				
13	教科書の第五課②	事前:CD を聞き、本文朗読 事後:練習、復習	講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分				
14	総復習:文法・練習	事前:わからない内容確認 事後:総復習	講義(復習・説明)30分、練習 40分、 質問応答 20分				
15	総復習:リスニング・会話	事前:復習:単語文を覚える 事後:総復習	講義(復習・説明)30分、発音・練習 40分、質問応答 20分				

# 教本:

参考文献:

『楽しく学ほう やさしい中国語』(講読編)中国語で巡る中国文化 王 武雲ほか著 郁文堂 授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

授業への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

この授業は中国語の初級内容を復習しながら、中級へ進む。「中国語 I 」「中国語 II 」を履修したら、更に高い中国語力が身に付けられる授業である。

# オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中国文化研究A	中国文化研究 A (Chinese Studies A) 科目分類 専門科目							
担当教員	但 継紅	但 継紅							
履修条件	前提科目なし								
腹形朱叶	その他	なし							

中国は、地理的に日本に近く、似たような文化を持っている反面、全く異なった自然環境、歴史、文化、生活習慣、社会も併せ持っている。そのような 隣国―中国の歴史、さまざまな地域・民族の文化、人々の生活様式を知る。授業は、講義、映像資料の視聴、討論、質疑応答、発表などを組み合わせて行う。

## 授業目標:

中国の全体像を知ることによって、現代中国への理解を深め、日中文化や日中関係に対する思考力を養うことを目標とする。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
	0	©

# 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ガイダンス、概要	事前:シラバスを確認 事後:配布資料を読む	ガイダンス 20分、講義 20分、ディス カッション 20分、質疑応答 30分
2	中国の歴史、社会	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	講義 60分、ディスカッション・質疑 応答 30分
3	日中関係史	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	講義 60分、ディスカッション・質疑 応答 30分
4	日本に伝わった中国文化	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	講義 60分、ディスカッション・質疑 応答 30分
5	さまざまな民族の生活	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	講義 60分、ディスカッション・質疑 応答 30分
6	中国の食文化	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	講義 60分、ディスカッション・質疑 応答 30分
7	中華人民共和国	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	講義 60分、ディスカッション・質疑 応答 30分
8	映画を通して中国を知る①	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	講義 20分、映画鑑賞 70分
9	映画を通して中国を知る②	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	映画鑑賞 90分
10	中国の思想	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	講義 60分、ディスカッション・質疑 応答 30分
11	中国の宗教	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	講義 60分、ディスカッション・質疑 応答 30分
12	現代の中国人の価値観	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	講義 60分、ディスカッション・質疑 応答 30分
13	映画を通して中国を知る①	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	講義 40分、映画鑑賞 50分
14	映画を通して中国を知る②	事前:配布資料を確認 事後:配布資料を読む	映画鑑賞 90分
15	討論、まとめ、レポート指導	事前:レポート題名を決める 事後:レポート作成	まとめ 20分、ディスカッション 30 分、レポート指導 40分

教本:

参考文献:

特に設定せず、各時間にプリントを配布。

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状况等(50%)、レポート(50%)で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

出席と資料の調べ、時々資料を読むことが求められます。

# オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中国文化研究	中国文化研究B(Chinese Studies B) 科目分類 専門科目							
担当教員	但 継紅	但 継紅							
园 收 久 州	前提科目	前提科目 「中国文化研究A」の継続授業であるため、前期の受講が望ましい							
履修条件 その他 なし									

中国は、地理的に日本に近く、似たような文化を持っている反面、全く異なった自然環境、歴史、文化、生活習慣、社会も併せ持っている。そのような 隣国―中国の歴史、さまざまな地域・民族の文化、人々の生活様式を前期の講義で学ぶ。後期は、受講者に自分の興味や関心のあるテーマや問題を決めて もらい、個別に調べてまとめ、発表してもらう。

## 授業目標:

中国の全体像を知ることによって、現代中国への理解を深め、日中文化や日中関係に対する思考力を養うことを目標とする。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
	0	©

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

<b>授業計</b>	<b>町、事則字省・事後字省、形式</b>		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ガイダンス 受講者各自の発表テーマの相談・確認	事前:シラバスを確認 事後:配布資料を読む	ガイダンス 20分、講義 20分、ディス カッション 20分、質疑応答 30分
2	受講者各自の発表テーマの相談・提出	事前:各自発表テーマを調べ 事後:各自発表テーマを調べ	説明 20分、個別指導 70分
3	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など	事前:配布資料を読む 事後:各自発表を準備する	発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分
4	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など	事前:配布資料を読む 事後:各自発表を準備する	発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分
5	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など	事前:配布資料を読む 事後:各自発表を準備する	発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分
6	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など	事前:配布資料を読む 事後:各自発表を準備する	発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分
7	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など	事前:配布資料を読む 事後:各自発表を準備する	発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分
8	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など	事前:配布資料を読む 事後:各自発表を準備する	発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分
9	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など	事前:配布資料を読む 事後:各自発表を準備する	発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分
10	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など	事前:配布資料を読む 事後:各自発表を準備する	発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分
11	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など	事前:配布資料を読む 事後:各自発表を準備する	発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分
12	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など	事前:配布資料を読む 事後:各自発表を準備する	発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分
13	レポート指導とレポートの提出	事前:各自レポート作成 事後:各自レポート作成	レポート個別指導 90分
14	レポート指導とレポートの提出	事前:各自レポート作成 事後:各自レポート作成	レポート個別指導 90分
15	まとめ、レポート指導と提出	事前:各自レポート作成 事後:各自レポート作成	レポート個別指導 90分

教本:

参考文献:

特に設定せず、各時間にプリントを配布。

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状况等(50%)、レポート(50%)で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

出席と資料の調べ、時々資料を読むことが求められます。

# オフィスアワー:

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	調査研究(フィールドワーク)(Fieldwork) 科目分類 専門科目								
担 当 教 員	川添 裕子	川添 裕子							
	前提科目	文化人類学関	連科目						
履修条件	その他	文献読解力、	アカデミック	ライティング	技術が必要と	なる。授業以	外に相当な時間と	労力を要する	0
	10	Google Class	room 利用。,	ノートパソコ:	ン持参。				

「エスノグラフィック・フィールドワーク」調査法 (調査法の種類と特徴、問いの設定、調査対象設定、調査計画、文献検討、先行研究分析、倫理審査、参与観察、インタビュー、フィールドノート、データ分析、報告書作成)のプロセスを習得します。

## 授業目標:

- 1. 多様な調査法と、エスノグラフィック・フィールドワーク調査法の特徴を習得する。
- 2. エスノグラフィーを読み、読解し、自分の調査計画にいかすことができる。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
$\circ$	©	

## 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1 · 2	量的調査、質的調査およびフィールドワーク調査の特徴、プロセスを学ぶ。	事前:高校地理を振り返る 事後:復習する	講義 60分、 ディスカッション 30分
3	エスノグラフィーを読む(学術論文、市場調査)	事前:高校地理を振り返る 事後:復習する	講義 60分、 グループワーク 30分
4 ~ 6	問いと対象を立ててみる。対象に応じて調査企画案を作成する。倫理審査 申請書と調査協力依頼書等、必要書類作成を学ぶ。必要書類を提出する。 各自、対象に関する文献資料を収集し、発表する。調査企画とフィールド デザインする。	事前:文献資料を収集する 事後:教科書2回・3回を復習する	講義 60分、 ディスカッション 30分
7 · 8	参与観察法、インタビュー法、フィールドノート作成およびインターネッ トエスノグラフィーについて学び、履修者間でエクササイズをする。	事前:ノートを購入する 事後:教科書 4 回~ 6 回を復習する	実習
9	調査企画をたてる	事前:関心テーマを絞る 事後:教科書 7 回・8 回を復習する	講義 60分、 ディスカッション 30分
10 · 11	事例カード、関係図作り、概念、「KJ法」について学ぶ	事前:事例を読み込む 事後:教科書 9 回を復習する	実習
12	概念関係図から、事例を再構成し、理論的テーマを確定する。設問、鍵概 念、結論、章立て	事前:事例を読み込む 事後:教科書10回・11回を復習する	講義 60分、 ディスカッション 30分
13 · 14	エスノグラフィー(報告書)執筆	事前:報告書執筆 事後:コメントを反映する	講義 60分、 プレゼンテーション 30分
15	発表、フィードバック	事前:プレゼン準備 事後:報告書修正	プレゼンテーション 60分、 ディスカッション 30分

#### 教本:

参考文献:

村田晶子・箕曲在弘・佐藤慎司 他編

中蔦洋『初学者のための質的研究26の教え』医学書院、¥1,800+税

『フィールドワークの学び方』ナカニシヤ出版 ¥2,200+税

#### 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等 (20%)、調査の各段階の達成・課題提出等 (30%)、報告書 (50%) 等で総合評価します。本授業は、大学外の方々のご協力で進めていきますので、全回、出席することが前提です。また信頼を損なう行為があった場合は単位判定の対象としません。

#### 学生へのアドバイス:

社会文化的視点からの分析、文献読解力、レポート作成力を高めたい人に勧めます。

## オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地理学(Geogr	raphy)		科目分類	基礎科目				
担当教員	南 春英	南 春英							
履修条件	前提科目	前提科目 なし							
腹   形 宋 計	その他	なし							

地理学は系統地理学と地誌学に分かれ、系統地理学は自然地理学と人文地理学に細分化する。本授業では、系統地理学の観点から自然と人間との関わり合いと、現代世界の生活文化、地域問題の現状について学ぶ。

## 授業目標:

空間スケールでの現象の多様性と相互関係性を考察する能力を習得する。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
	0	©

# 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ガイダンス 授業内容の説明	事前:なし 事後:ノート整理	講義
2	地理学とは 地理学の目的と課題	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
3	地理情報と表現方法	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
4	地図の概要と地形図の読図	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
5	地球の姿と成り立ち	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
6	世界の地形① 地球規模の大地形	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
7	世界の地形② 河川の小地形	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
8	世界の気候 気候の成り立ちと世界の気候区分	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
9	ハザードマップ概要	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
10	わがまちのハザードマップ調査	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
11	洪水ハザードマップと日常生活、自然災害	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
12	資源と産業-工業の立地変化	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
13	世界の人口一世界の人口問題	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
14	生活文化・民俗地理―世界の食肉文化・生活と環境	事前:前回のノート整理 事後:専門用語の理解	講義
15	まとめ	事前:前回のノート整理 事後:地域理解ができたか	講義

# 教本:

参考文献:

なし。必要に応じてプリントを配布します。

書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

欠席と遅刻をしないこと。様々なことに関心も持ってください。

# オフィスアワー:

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	地理情報システム(Geographical Information Systems) 科目分類 専門科目								
担当教員	山本 美紀	山本 美紀							
履修条件	前提科目	なし							
履 形 木 円	その他 実習では、ノートパソコンを用意すること。								

この授業では、地理情報システム(GIS)の基礎知識を学び、身の回りの事例やオープンデータを用いて、実際にGISを活用する方法を習得することを目的とします。具体的には、地図とGISの関係を理解し、地図データと地図上の事物、現象の属性データを統合してデータベース化し、それを検索、分析、可視化することを目指します。そのために、GISの基本操作、空間分析の方法を身に付けます。

- ① GIS とは何か、活用事例に関連付けて説明できる。
   ② GISのデータモデル、座標系について説明できる。
   ③ GISのオープンデータを活用することができる。
   ④ GISの基本操作ができる。
   ⑤ GIS を使用して、空間分析ができる。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に $\bigcirc$ 、重要に $\bigcirc$ 1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	$\circ$	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

12.75.01	四、 于		
授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態
1	インストラクション「地理情報システム (GIS)」 授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明 する。GISとは何か、GISの活用事例を紹介する。	事前:なし 事後:ミニッツペーパー	アイスブレイク (10分) 講義 (80分)
2	GISのデータモデル ベクター形式のデータモデルとラスタ形式のデータモ デルについて学ぶ。	事前:GISのデータモデルについて調べてまとめる。 事後:ミニッツペーパー	講義(90分)
3	GISと座標系 座標系とは何か、地図とGISの座標系について学ぶ。	事前:地図とGISの座標系について調べてまとめる。 事後:ミニッツペーパー	講義(90分)
4	GIS のオープンデータ (1)	事前: 国土地理院のWebサイトで基盤地図情報について下調べをする。	講義(40分)
	基盤地図情報のダウンロードと地図化について学ぶ。	事後: 指定する地域の基盤地図情報を地図化する。	実習(50分)
5	GIS のオープンデータ (2)	事前:総務省のWebサイトで国勢調査データについて下調べをする。	講義(40分)
	国勢調査データのダウンロードと地図化について学ぶ。	事後:指定する地域の国勢調査データを地図化する。	実習(50分)
6	GISのオープンデータ (3)	事前:国土交通省のWebサイトで国土数値情報について下調べをする。	講義(40分)
	国土数値情報のダウンロードと地図化について学ぶ。	事後:指定する地域の国土数値情報を地図化する。	実習(50分)
7	GIS の基本操作(1)	事前:指定する GIS について Web サイトで下調べする。	講義(40分)
	プロジェクトの作成とデータの入出力について学ぶ。	事後:今回学んだ基本操作を復習する。	実習(50分)
8	GIS の基本操作 (2)	事前:レイヤについて読んでまとめる。	講義(40分)
	レイヤの編集について学ぶ。	事後:今回学んだ基本操作を復習する。	実習(50分)
9	GIS の基本操作(3)	事前:地図と属性データの結合について読んでまとめる。	講義(40分)
	地図と属性データの結合、属性検索について学ぶ。	事後:今回学んだ基本操作を復習する。	実習(50分)
10	GIS の基本操作(4)	事前:属性テーブルとフィールド演算について読んでまとめる。	講義(40分)
	属性テーブル編集とフィールド演算について学ぶ。	事後:今回学んだ基本操作を復習する。	実習(50分)
11	GIS の基本操作 (5)	事前:バッファとオーバーレイについて読んでまとめる。	講義(40分)
	バッファの作成とオーバーレイについて学ぶ。	事後:今回学んだ基本操作を復習する。	実習(50分)
12	GIS の課題研究:課題データのダウンロードと編集を	事前:課題データのテーマを決める。	講義(20分)
	行う。	事後:課題研究を進める。	実習(70分)
13	GIS の課題研究:空間分析を行う。	事前:なし 事後:課題研究を進める。	講義(20分) 実習(70分)
14	GIS の課題研究:空間分析のまとめ、レポートの作成を	事前:なし	講義(20分)
	行う。	事後:レポートを完成させ、期限までに提出する。	実習(70分)
15	課題研究発表と学びの振り返りを行う。	事前:学習ポートフォリオを整理する	講義 (30分)
	GISが支える近未来の社会について考える。	事後:学びの振り返り。	発表 (60分)

#### 参考文献:

授業内で指示する。 羽田 康祐 (2021) 『地図リテラシー入門-地図の正しい読み方・描き方がわかる』 ベレ出版 ISBN: 978-4860646660 橋本 雄一(2019)『五訂版 GISと地理空間情報:ArcGIS 10.7と ArcGIS Pro 2.3の活用』古今書院 ISBN:978-4772242134 その他、必要に応じて授業内で紹介する。

成績評価の方法、評価基準: 学習ポートフォリオ(ミニッツペーパー、事前事後課題、振り返り等):60%、課題研究:40% ※学習ポートフォリオは、ルーブリック(評価基準)による自己評価を含む。

スマートフォンやインターネット上に、地図が溢れている時代、それを支える GIS の仕組みを理解して、地図と情報を適切に活用することができる力は、 今を生きるために求められる力といえます。この授業では、実際に GIS を使用した実習が主となります。

オフィスアワー: 初回講義日に伝える。

開講年次	2 年次 半期 選択·必修 選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	ディスカッション (Discussion)				科目分類	専門科目	
担当教員	澤田 帆奈美						
履修条件	前提科目なし						
履 修 朱 什	その他 なし						

ディスカッションのトレーニングを行なう。グループディスカッションの手順を知る。意見の述べ方、反論のしかた、意見のまとめ(総括)のしかたを知 り、トレーニングする。ディベートの実践、分析も同様に行なう。コミュニケーションにおける自己の特徴を理解し、弱点改善のためのトレーニングを行 なう。

# 授業目標:

- 1. ディスカッションとディベートの目的や意義・方法について理解を深める。
- 2. 自らの立場を明確にして論理的に意見を述べることができる。
- 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。

# カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

## 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション(授業の進め方)	事前:シラバスを読んでくる	講義(30分)·
	自己評価 グループディスカッションについて(概説)	事後:資料の整理と記入	各自作業(60分)
2	自他理解を深める アイスブレイク、スモールトーク	事前:事前資料の読み	講義(20分)・
	グループディスカッション 事前準備 1	事後:活動メモの整理記入	グループ活動(70分)
3	傾聴(うなずき・あいづち・復唱)、議論でのルール 司会者(ファシリテーター)の役割	事前:事前資料の読み	講義(30分)・
	グループディスカッション 事前準備2	事後:活動メモの整理記入	グループ活動(60分)
4	ブレーンストーミング・ブレイン・ライティング(概説)	事前:事前資料の読み	講義(40分)・
	グループディスカッション1(ブレイン・ライティング)	事後:活動メモの整理記入	グループ活動(50分)
5	意見の述べ方(意見と根拠 論理性)	事前:事前資料の読み	講義(20 分)・
	グループディスカッション2(ブレイン・ライティング)	事後:活動メモの整理記入	グループ活動(70 分)
6	アイディアの広げ方 別の立場・視点から考える	事前:事前資料の読み	講義(20分)・
	グループディスカッション 3 (ブレーンストーミング)	事後:活動メモの整理記入	グループ活動(70分)
7	議論の整理のしかた	事前:事前資料の読み	講義(20 分)・
	グループディスカッション 4 (ブレーンストーミング)	事後:活動メモの整理記入	グループ活動(70 分)
8	論題(テーマ)の種類 テーマ分析と論点の確認	事前:事前資料の読み	講義(30 分)・
	グループディスカッション 5	事後:活動メモの整理記入	グループ活動(60 分)
9	意見への質問のしかた 議論の深め方(反対意見を想定してみる)	事前:事前資料の読み	講義(20分)・
	グループディスカッション 6	事後:活動メモの整理記入	グループ活動(70分)
10	反論のしかた(引用、譲歩、反駁)	事前:事前資料の読み	講義(20 分)・
	グループディスカッション 7	事後:活動メモの整理記入	グループ活動(70 分)
11	意見のまとめ(総括)のしかた	事前:事前資料の読み	講義(20 分)・
	グループディスカッション8	事後:活動メモの整理記入	グループ活動(70 分)
12	ディベートについて(概説) 動画視聴	事前:配付資料の熟読 事後:ノート・資料の整理	講義(30分)・ グループ活動(60分)
13	ディベート1	事前:なし 事後:活動メモの整理記入	講義(30分)・ グループ活動(60分)
14	ディベート 2	事前:なし 事後:活動メモの整理記入	講義(30分)・ グループ活動(60分)
15	全体のまとめ 事後自己評価	事前:質問・確認の洗い出し 事後:なし	講義(30分)・ グループ活動(60分)

## 教本:

## 参考文献:

宮内泰介著『グループディスカッションで学ぶ 社会学トレーニング』 下瀬川慧子他『日本語 口頭発表と討論の技術』東海大学出版会 三省堂

中野美香著『大学生からのグループディスカッション入門』ナカニシヤ出版

• 資料とタスクシートを配付する。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

議論への参加等の発言(65%)、振り返りレポート・提出物等(30%)、自己評価票(5%)等で総合評価する。

#### 学生へのアドバイス:

議論することのおもしろさを経験しましょう。討論に参加する際の発言のしかたやマナーなども身につけます。積極的に議論に参加しようという心構え を持って受講してください。

# オフィスアワー

開講年次	<b>2 年次 半期</b> 選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	ディスカッション (Discussion) 科目分類 <b>専門科目</b>							
担当教員	横手 拓治							
履修条件	前提科目なし							
履 修 朱 什	その他 なし							

本講は、同じテーマについて意見の違い・主張の違い・考え方の力点の相違があることを理解し、それらの分析と自身の見解を述べることを実施し、併せてよりよい論議の方法について学修するものである。

#### 授業目標:

\*新聞の論調を材料に、現代のさまざまな問題に対して、意見の違いを見出しどう主張していくかを理解しながら、ディスカッションのスキルを身につける。\*メディア・リテラシーを涵養することにも繋がる授業である。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	授業の進め方を含めた、全体のオリエンテーション	事前:シラバスを読んでおく 事後:webから情報を得る	講義30分、演習60分
2	題材としての新聞論調の解説、および実例に触れる。①社会 *新聞を購読していなくでも実践できる内容としている。	事前:webから情報を得る 事後:社会の知識を増やす	講義30分、演習60分
3	題材としての新聞論調の解説、および実例に触れる。②政治 *は同じ。	事前:webから情報を得る 事後:政治の知識を増やす	講義30分、演習60分
4	題材としての新聞論調の解説、および実例に触れる。③暮らしの経済 *は同じ。	事前:webから情報を得る 事後:経済の知識を増やす	講義30分、演習60分
5	新聞コラムの読み比べ① ガイダンス *は同じ。	事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、演習60分
6	新聞コラムの読み比べ② 学生発表と討議第1回 *は同じ。	事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、発表60分
7	新聞コラムの読み比べ③ 学生発表と討議第2回 *は同じ。	事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、発表60分
8	グループディスカッション① *事前のテーマ設定あり	事前:web から情報を得る 事後:意見交換の復習	講義30分、演習60分
9	意見や疑問をもとにした主張のための情報収集 動画視聴①	事前:web から情報を得る 事後:情報収集の復習	講義30分、視聴60分
10	新聞社説・論説の読み比べ① ガイダンス *は同じ	事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、演習60分
11	新聞社説・論説の読み比べ② 学生発表と討議第1回 *は同じ。	事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、発表60分
12	新聞社説・論説の読み比べ③ 学生発表と討議第2回 *は同じ。	事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、発表60分
13	意見や疑問をもとにした主張のための情報収集 動画視聴②	事前:web から情報を得る 事後:情報収集の復習	講義30分、視聴60分
14	グループディスカッション② *事前のテーマ設定あり	事前:web から情報を得る 事後:意見交換の復習	講義30分、演習60分
15	まとめの講義と、授業内最終課題の実施。	事前:読み比べの復習 事後:全体の復習	講義45分、課題45分

## 教本:

参考文献:

なし。必要な素材についてはその都度コピーを配布。

授業において適宜、紹介する。

# 成績評価の方法、評価基準:

授業参加・発表状況 (40%)、レビューシート (40%)、最終試験 (20%) 等で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

授業内容でも触れたように、この授業は新聞論調を題材にするが、新聞を購読していない学生、日ごろ新聞を読まない学生も対象にしており、充分対応できるようになっている。webを通じて収集するのを基本としているためである。\*就活やインターンにも役立つので、面接対策にも利用できる。

# オフィスアワー:

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	データサイエンス (Data Science) 科目分類 <b>専門科目</b>								
担当教員	井上 明也								
履修条件	前提科目	前提科目 なし							
腹啄木片	その他 EXCELが使用できるノートパソコンを用意すること								

近年、ビッグデータやデータサイエンティストというキーワードが着目されているが、その本質はデータ分析技術だけでなく、ビジネス課題における意思決定にいかに有効に活用することができるかが重要なポイントである。本講義では、データサイエンスに関連する技術動向について学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要となる基礎技術とその活用法を学ぶ。

## 授業目標:

どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。複数の要因を考慮した 分析が必要な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

<b>授業計</b>	<b>町、事則子省・事後子省、形式</b>		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	シラバスの説明、データサイエンス関連技術動向、	事前:シラバスを読む	講義 60 分
	データサイエンスの概要と関連動向	事後:資料を復習する	演習 30 分
2	データ分析の基礎	事前:前回の資料を復習する	講義 30 分
	可視化によるデータ分析と回帰分析の基礎	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
3	重回帰分析 - 1	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数の要因分析と予測を目的とした重回帰分析とその活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
4	重回帰分析 - 2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
5	重回帰分析 - 3	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
6	判別分析 - 1	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	機械学習に活用される判別分析手法とその活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
7	判別分析 - 2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数のサンプルデータを用いた判別分析の適用方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
8	数量化理論 $I$ 類 $-1$ 定性的なデータを説明変数(要因)とする回帰分析手法	事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
9	数量化理論 I 類 - 2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数のサンプルデータを用いた数量化理論 I 類の適用方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
10	数量化理論Ⅱ類 - 1	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	定性的なデータを説明変数(要因)とする判別分析手法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
11	数量化理論Ⅱ類 - 2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数のサンプルデータを用いた数量化理論Ⅱ類の適用方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
12	複数の手法を組み合わせた分析	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	重回帰&数量化理論 I 類混合モデルとその活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
13	ロジスティック回帰分析	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	機械学習に活用される代表的な分析手法とその活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
14	実データ演習	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	公開データの入手、分析、評価、考察	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
15	最終課題	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	これまでに学んだ手法を活用した最終課題の実施	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分

教本:

参考文献:

講義内で指示する

指定しない

成績評価の方法、評価基準:

演習課題・レポート等(100%)で総合評価する。

学生へのアドバイス:

授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。

オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文) データサイエンスの統計学 (Statistics for Data Science) 科目分類 専門科目									
担当教員	井上 明也	井上 明也							
履修条件	前提科目なし								
履 修 朱 计	その他	EXCEL が使	用できるノー	トパソコンを	用意すること				

近年、データ分析を専門とするデータサイエンティストという職種が着目されているが、統計学はデータサイエンティストだけでなく、一般のビジネスパーソンにとっても必要な基礎知識である。本講義では、統計学の基礎知識とサンプルデータによる演習課題を通してその活用法を学ぶ。

## 授業目標:

統計学の基礎知識を学ぶことにより、データを分析・理解するための基礎能力の習得を目指す。

カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

12/1/11			
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	シラバスの説明、統計学の概要	事前:シラバスを読む 事後:資料を復習する	講義
2	統計学で用いる用語、基本統計量	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
3	ヒストグラム、パレート図	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
4	分散と標準偏差 基準値と偏差値	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
5	相関分析	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
6	確率変数と期待値-1	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
7	確率変数と期待値-2	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
8	正規分布	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
9	母集団と標本	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
10	区間推定-1	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
11	区間推定-2	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
12	母平均の検定	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
13	母分散・母比率の検定	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
14	有意差検定-1-等平均仮説の検定	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
15	有意差検定-2-母比率の有意差検定 まとめと活用事例	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分

教本:

参考文献:

講義初回のガイダンスで指示する。

講義内で指示する

成績評価の方法、評価基準:

演習課題・レポート等(100%)で総合評価する。

学生へのアドバイス:

授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。

オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)									
担当教員	井上 明也								
履修条件	前提科目なし								
腹 形 朱 什	その他	EXCEL が使	用できるノー	トパソコンを	用意すること				

近年、ビッグデータやデータサイエンティストというキーワードが着目されているが、その本質はデータ分析技術だけでなく、ビジネス課題における意思決定にいかに有効に活用することができるかが重要なポイントである。本講義では、データサイエンスに関連する技術動向について学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要となる基礎技術とその活用法を学ぶ。

#### 授業目標:

どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。複数の要因を考慮した 分析が必要な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

<b>授業計</b>	<b>町、事則子省・事後子省、形式</b>		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	シラバスの説明、データサイエンス関連技術動向、	事前:シラバスを読む	講義 60 分
	データサイエンスの概要と関連動向	事後:資料を復習する	演習 30 分
2	データ分析の基礎	事前:前回の資料を復習する	講義 30 分
	可視化によるデータ分析と回帰分析の基礎	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
3	重回帰分析 - 1	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数の要因分析と予測を目的とした重回帰分析とその活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
4	重回帰分析 - 2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
5	重回帰分析 - 3	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
6	判別分析 - 1	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	機械学習に活用される判別分析手法とその活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
7	判別分析 - 2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数のサンプルデータを用いた判別分析の適用方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
8	数量化理論 $I$ 類 $-1$ 定性的なデータを説明変数(要因)とする回帰分析手法	事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
9	数量化理論 I 類 - 2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数のサンプルデータを用いた数量化理論 I 類の適用方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
10	数量化理論Ⅱ類 - 1	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	定性的なデータを説明変数(要因)とする判別分析手法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
11	数量化理論Ⅱ類 - 2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	複数のサンプルデータを用いた数量化理論Ⅱ類の適用方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
12	複数の手法を組み合わせた分析	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	重回帰&数量化理論 I 類混合モデルとその活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
13	ロジスティック回帰分析	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	機械学習に活用される代表的な分析手法とその活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
14	実データ演習	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	公開データの入手、分析、評価、考察	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
15	最終課題	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	これまでに学んだ手法を活用した最終課題の実施	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分

教本:

参考文献:

講義内で指示する

指定しない

成績評価の方法、評価基準:

演習課題・レポート等(100%)で総合評価する。

学生へのアドバイス:

授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。

オフィスアワー:

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文) データサイエンス II (Data Science II)   科目分類   専門科目									
担当教員	井上 明也	井上 明也							
履修条件	前提科目なし								
腹   形 宋 計	その他	EXCEL が使	用できるノー	トパソコンを	用意すること				

データサイエンスの本質はデータ分析技術だけでなく、ビジネス課題における意思決定にいかに有効に活用することができるかが重要なポイントである。 本講義では、ビジネス課題への活用法と留意点について学ぶとともに、ビジネスへの適用事例である演習課題を通して、データ分析技術とその活用法を学ぶ。また、課題解決のために必要となるデータの選定、調査法も演習を通して学ぶ。

# 授業目標:

現実の課題に対して、分析に必要となるデータの選定と入手方法の検討から、分析の実行、分析結果の評価、という一連の流れを理解する。具体的な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

127611			
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	シラバスの説明、ビジネスにおけるデータ分析フロー	事前:シラバスを読む	講義 60 分
	ビジネスにおけるデータ分析処理の流れとその概要	事後:資料を復習する	演習 30 分
2	ビジネスにおけるデータサイエンスの基本コンセプト	事前:前回の資料を復習する	講義 30 分
	ビジネスにおけるデータサイエンスの処理プロセスと留意点	事後:資料を復習する	演習 60 分
3	コンジョイント分析	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	商品開発に活用される代表的な分析手法とその活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
4	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-1	事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
5	コンジョイント分析によるビジネス活用事例―2	事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
6	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-3	事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
7	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-4	事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する	講義 30 分 演習 60 分
8	データサイエンスによる課題解決—1	事前:前回の資料と課題を復習する	講義30分
	課題の分析と問題設定のための手法	事後:資料と課題を復習する	演習60分
9	データサイエンスによる課題解決一2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	分析に必要なデータの抽出と定義	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
10	データサイエンスによる課題解決一3	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	データ収集のための調査手法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
11	データサイエンスによる課題解決演習-1	事前:前回の資料と課題を復習する	講義30分
	課題の選定と問題設定	事後:資料と課題を復習する	演習60分
12	データサイエンスによる課題解決演習-2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	調査票の作成	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
13	データサイエンスによる課題解決演習-3	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	調査の実施とデータの整理	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
14	データサイエンスによる課題解決演習-4	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	分析の実施	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
15	データサイエンスによる課題解決演習-5	事前:プレゼン資料を作成する	講義 15 分
	分析結果のプレゼンの実施	事後:これまでの資料を復習する	演習 75 分
1			

教本:

参考文献:

指定しない

講義内で指示する

#### 成績評価の方法、評価基準:

演習課題・レポート等(100%)で総合評価する。

# 学生へのアドバイス:

授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。

# オフィスアワー:

開講年次	1 年次 半期 選択·必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	データ処理(Data Processing	科目分類		(メディア以外) (メディア)				
担 当 教 員	井上 明也・金 宰郁・山本	美紀						
履修条件	前提科目 <b>情報基礎/</b> 情	<b>青報処理概論</b>						
履 修 采 件	その他 ※「学生への	アドバイス」参	照					

主に表計算ソフトを利用して、コンピュータにおけるデータ処理・分析について学習する。

#### 授業目標:

表計算ソフトの操作に習熟し、表やグラフのデータ表現や関数等を利用したデータ処理・分析の手法を身につけることが本講義の目標となる。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		
©	0			

## 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	シラバスの確認、データの種類とデータ処理・分析の概説	事前:シラバスを読む 事後: PC 操作の復習	講義 60分、演習 30分
2	表計算ソフトの基本操作と作表の基礎	事前:ファイル形式について調べる 事後:作表課題を完成する	講義 45分、演習 45分
3	数式と基本関数の利用	事前:基本関数について調べる 事後:関数利用課題を完成する	講義 45分、演習 45分
4	数式と絶対/相対参照	事前:参照について調べる 事後:複合参照課題を完成する	講義 45分、演習 45分
5	グラフの作成	事前:グラフの種類について調べる 事後:グラフ課題を完成する	講義 45分、演習 45分
6	表示形式の設定	事前:表示形式について調べる 事後:ユーザ定義表示形式課題を完成する	講義 45分、演習 45分
7	複数シートの操作	事前:シートの操作について調べる 事後:複数シート課題を完成する	講義 45分、演習 45分
8	高度な関数の利用	事前:様々な関数について調べる 事後:関数課題を完成する	講義 45分、演習 45分
9	条件付き書式	事前:条件付き書式について調べる 事後:条件付き書式課題を完成する	講義 45分、演習 45分
10	データベースの利用	事前:データベースについて調べる 事後:データベース課題を完成する	講義 45分、演習 45分
11	ピボットテーブル	事前: ピボットテーブルについて調べる 事後: ピボットテーブル課題を完成する	講義 45分、演習 45分
12	高度なグラフの作成	事前:複合グラフについて調べる 事後:高度なグラフ課題を完成する	講義 45分、演習 45分
13	マクロの利用	事前:マクロについて調べる 事後:マクロ課題を完成する	講義 45分、演習 45分
14	外部データの利用	事前:データの取り込みについて調べる 事後:外部データ課題を完成する	講義 45分、演習 45分
15	まとめ、総合練習問題	事前:総合練習問題を練習する 事後:総合練習課題を完成する	講義 60分、演習 30分

教本:

参考文献:

講義内で指示する

講義内で指示する

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

授業内での演習及び小テスト (50%)、提出課題 (50%) 等で総合評価する。

## 学生へのアドバイス:

やむを得ず欠席した場合は、必ず担当の先生に指示を仰ぐようにして下さい。3304、2207以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となります。また、適時バックアップを取るようにしてください。

### オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	データマイニ	科目分類	専門科目						
担 当 教 員	井上 明也								
履修条件	前提科目なし								
履 形 朱 什	その他 EXCELが使用できるノートパソコンを用意すること								

「データマイニング」とは多量のデータから新たな知見・知識を得ることを意味する。「マイニング」とは「採鉱」であり、語源の通り鉱山から金鉱を掘り当てるという行為に似た作業である。本講義では「データマイニング」とはなにか、その実現技術とはどのようなものかを学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要となる基礎技術とその活用法を学ぶ。

### 授業目標:

どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。原因(要因)と結果の関係を明らかにする基本的な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		
©	0			

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

权未引	回、尹則子自・尹恢子自、ルス		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	シラバスの説明、データマイニングとは データマイニングの登場、発展の背景と現状について理解する	事前:シラバスを読む 事後:資料を復習する	講義
2	処理プロセスとデータ分析手法の基礎	事前:前回の資料を復習する	講義 60 分
	データ分析の処理プロセスと分析手法の概要を理解する	事後:資料と課題を復習する	演習 30 分
3	データ分析の基礎 1	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	分析目的に適したデータのグラフ化、可視化手法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
4	データ分析の基礎 2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	基本統計量とヒストグラムによる分析方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
5	データ分析の基礎 3	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	パレート図によるデータ分析方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
6	データ分析の基礎 4	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	クロス集計データの分析方法、相関係数の意味理解と算出方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
7	データ分析の基礎 5	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	単回帰分析の意味理解と単回帰式の算出方法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
8	データ分析演習 1	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
9	データ分析演習 2	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
10	データ分析演習 3	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
11	データ分析演習 4	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
12	データ分析演習 5	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
13	データ分析演習 6	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分
14	実データ演習	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 60 分
	公開データの入手、分析、評価、考察	事後:資料と課題を復習する	演習 30 分
15	最終課題	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 30 分
	これまでに学んだ手法を活用した最終課題の実施	事後:資料と課題を復習する	演習 60 分

教本:

参考文献:

指定しない

講義内で指示する

## 成績評価の方法、評価基準:

演習課題・レポート等(100%)で総合評価する。

## 学生へのアドバイス:

授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。

## オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	データモデリ	科目分類	専門科目						
担 当 教 員	山本 美紀								
履修条件	前提科目なし								
履 形 朱 什	その他 Microsoft Access がインストールされたノートパソコンを用意すること。								

この授業では、データモデリングの枠組みについて学び、社会にあふれている膨大なデータを一定のルールに基づいて整理し、価値ある情報にするためのデータモデリングの手法を身に付けます。また、データベースを操作するためのSQLの基礎を学び、実際に、データモデリングによってデータベースを構築することを目指します。

#### 授業目標:

- ①データベースモデリングとは何か、システム開発のプロセスに対応づけて説明できる。
- ②概念データモデリング、論理データモデリング、物理データモデリングで用いる手法について説明できる。
- ③ SQL を用いてデータベースの基本操作ができる。
- ④社会のある事象に注目して、実際にデータモデリングを行い、自分の知りたい情報を得ることができる。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		
©	0			

#### 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業			
回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 データベースモデリングとは何か、について学ぶ。	事前:シラバスを読む 事後:ミニッツペーパー	アイスブレイク(10分) 講義(80分)
2	データベースとリレーショナルデータベースについて学ぶ。	事前:DBの種類を調べる 事後:ミニッツペーパー	講義(60分) 演習(30分)
3	概念データモデリング(1)エンティティと属性について学ぶ。	事前:下調べをする 事後:ミニッツペーパー	講義(60分) 演習(30分)
4	概念データモデリング (2) ERモデルについて学ぶ。	事前:下調べをする 事後:ミニッツペーパー	講義(60分) 演習(30分)
5	論理データモデリング (1) 正規化について学ぶ。	事前:下調べをする 事後:ミニッツペーパー	講義(60分) 演習(30分)
6	論理データモデリング(2) テーブルとビューについて学ぶ。	事前:下調べをする 事後:ミニッツペーパー	講義(60分) 演習(30分)
7	物理データモデリング(1)非正規化について学ぶ。	事前:下調べをする 事後:ミニッツペーパー	講義・演習(60分) 小テスト(30分)
8	物理データモデリング(2)インデックスと領域について学ぶ。	事前:下調べをする 事後:ミニッツペーパー	講義(60分) 演習(30分)
9	SQLによる演習 (1)① データベースの作成と削除、② テーブルの 作成と削除、更新について学ぶ。	事前:SQL について下調べ 事後:SQL の演習問題	講義(45分) 演習(45分)
10	SQLによる演習 (2)① 主キーと外部キーの制約、② レコードの追加と削除、更新について学ぶ。	事前:配布資料を読む 事後:SQLの演習問題	講義(45分) 演習(45分)
11	SQLによる演習(3)SELECT文の基本構文について学ぶ。	事前:配布資料を読む 事後:SQLの演習問題	講義(45分) 演習(45分)
12	期末課題:概念データモデリングを行う。	事前:配布資料を読む 事後:期末課題	講義(30分) 演習(60分)
13	期末課題:論理データモデリングを行う。	事前:配布資料を読む 事後:期末課題	講義(30分) 演習(60分)
14	期末課題:物理データモデリングを行う。	事前:配布資料を読む 事後:期末課題を完成させ、期限までに提出する	講義(30分) 演習(60分)
15	まとめと学びの振り返りを行う。 データベースとプログラムを連携した事例について紹介する。	事前:学習ポートフォリオ整理 事後:学びの振り返り	講義(60分) グループワーク(30分)
	·	*	•

# 教本:

参考文献:

指定しない。

授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。

必要に応じて授業内で資料等を配布する。

# 成績評価の方法、評価基準:

学習ポートフォリオ(ミニッツペーパー、演習問題、振り返り等): 60%、小テスト: 10%、期末課題: 30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック(評価基準)による自己評価を含む。

#### 学生へのアドバイス

この授業では、データモデリングの基礎的な知識を学ぶだけでなく、積極的に演習を行って、データモデリングのセンスを身に付けてください。

### オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタル技術と産業 I (Digital Technology and Industry I ) 科目分類 専門科目								
担 当 教 員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
腹   廖 宋   ]	その他	なし							

本講義の目的は、観光学領域の基礎的な知識を修得し、観光産業の果たす役割と今後の観光産業のあり方についての理解を深め、観光産業の振興を図る 創造的な能力と態度を育てることにある。そのために、「学術的な観光学の枠組」・「旅行者行動の分析手法」「新たな観光産業の形態」について講義をする。 特に、観光現象の「複雑性」・「学際性」を論ずることにより、「観光現象(観光産業を含む)のシステム的理解」を促す基礎的知識を提示する。

#### 授業目標:

- (1) 観光学の枠組みを理解する。
- (2) 観光産業の特性を理解する。
- (3) 社会のデジタル化に対する観光産業への応用の基礎 (システム化への基礎的知識) を理解する。

### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
$\circ$	©	

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

汉木田			
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション	事前:シラバスの確認 事後:ノートを整理して復習	講義 90 分
2	「需要・移動・供給」における観光産業の特性と分類 (観光学における関連性に関して)(Leiper(1990))	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
3	観光学の枠組みにおける観光産業の位置づけとその他の領域(観光学領域以外)との関連性 (Morley(1990)を中心に)	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
4	Origin (潜在的ツーリスト) と Destination (目的地) の学術的関係性 (Mill and Morison (1985))	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
5	「観光行動の特性」と「観光商品の特徴」:纏めと情報化への道筋	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
6	「潜在的観光者の動機づけ」の枠組と体系性	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
7	「観光者の動機づけ」: Push factor(発動要因)と Pull factor(誘因要因)の概 説	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
8	Push factor(発動要因)と Pull factor(誘因要因)の具体的内容とその関係性: 観光現象の情報学的説明への応用	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
9	旅行者行動の時系列的分析の基礎	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
10	観光商品の購入に関する「意思決定モデル」の概説	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
11	観光商品の購入に関する「意思決定モデル」の研究成果と今後の課題	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
12	観光商品計画の時系列的理解(供給と需要の相互関係性): 仮説的枠組みの紹介	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
13	観光商品計画の時系列的理解(消費者行動論的意味とその応用、特に「観光商 品への期待」に関して)	事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
14	観光産業のデジタル化への道筋:「観光学」の貢献しうる領域とその限界性	事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分
15	纏め	事前: 今までの講義の復習 事後: 講義全体の復習	前回の確認10分、講義80分

### 教本:

参考文献:

必要に応じプリントを配布する。

適時指定する。

#### 成績評価の方法、評価基準:

平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。

#### 学生へのアドバイス:

多様性を有する観光産業を体系的に記述することを心掛け、基礎的内容を具体的に丁寧に説明します。

### オフィスアワー:

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文) デジタル技術と産業 II (Digital Technology and Industry II) 科目分類 専門科目									
担当教員	井上 明也								
履修条件	前提科目	前提科目なし							
腹   廖 宋   円	その他 ノートパソコンを用意すること								

近年、インターネット、モバイル環境などのICT、ビッグデータ、AIなどのデジタル技術の進化により、ビジネスにおいて収益を上げる仕組みは、多様化、変化が加速している。本講義では、AIを中心とした最新の技術動向の概要を学ぶとともに、ビジネスの構造と収益を向上させる仕組みの観点から、ビジネスを分析する基礎技術とその活用法を、講義、演習、プレゼンテーション、反転授業により学ぶ。

#### 怪器日輝

AIを中心としたデジタル技術の進化がビジネスに与える影響を考慮して、ビジネスの構造を理解し、収益を向上させる仕組みの作り方を理解することを目的とする。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		
	0	©		

#### 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ビジネスモデル理解の基礎 I シラバスの説明とロジカルシンキングについて学ぶ	事前:シラバスを読む 事後:資料を復習する	講義
2	ビジネスモデル理解の基礎Ⅱ	事前:前回の資料を復習する	講義 60 分
	ビジネス分析のためのフレームワークについて学ぶ	事後:資料と課題を復習する	演習 30 分
3	ビジネスモデル理解の基礎Ⅲ	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 60 分
	戦略と戦略策定のフレームワークについて学ぶ	事後:資料と課題を復習する	演習 30 分
4	ビジネスに影響を与える技術動向	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 60 分
	DX、AIの概要とビジネスへの影響について学ぶ	事後:資料と課題を復習する	演習 30 分
5	ビジネスモデルとは	事前:前回の資料と課題を復習する	講義 60 分
	ビジネスモデルの基礎知識について学ぶ	事後:講義内容と課題を復習する	演習 30 分
6	ビジネスモデルの紹介 1	事前:指定モデルの調査と資料作成	講義 20 分
	指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン	事後:紹介されたモデルを復習する	プレゼン 70 分
7	ビジネスモデルの紹介 2	事前:指定モデルの調査と資料作成	講義 20 分
	指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン	事後:紹介されたモデルを復習する	プレゼン 70 分
8	ビジネスモデルの紹介3	事前:指定モデルの調査と資料作成	講義 20 分
	指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン	事後:紹介されたモデルを復習する	プレゼン 70 分
9	ビジネスモデルの紹介 4	事前:指定モデルの調査と資料作成	講義 20 分
	指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン	事後:紹介されたモデルを復習する	プレゼン 70 分
10	ビジネスモデルの紹介 5	事前:指定モデルの調査と資料作成	講義 20 分
	指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン	事後:紹介されたモデルを復習する	プレゼン 70 分
11	ビジネスモデルの紹介6	事前:指定モデルの調査と資料作成	講義 20 分
	指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン	事後:紹介されたモデルを復習する	プレゼン 70 分
12	ビジネスモデルの紹介 7	事前:指定モデルの調査と資料作成	講義 20 分
	指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン	事後:紹介されたモデルを復習する	プレゼン 70 分
13	ビジネスモデルの紹介 8	事前:指定モデルの調査と資料作成	講義 20 分
	指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン	事後:紹介されたモデルを復習する	プレゼン 70 分
14	ビジネスモデルの作り方	事前:提案するビジネス領域の調査	講義 60 分
	ビジネスモデルの基本的な考え方と作成方法について学ぶ	事後:提案モデルを検討する	演習 30 分
15	最終課題の発表とまとめ	事前:プレゼン資料を作成する	講義 10 分
	各自の最終課題の検討結果のプレゼンテーションとまとめ	事後:これまでの資料を復習する	プレゼン 80 分

#### 教本:

参考文献:

『この一冊で全部わかる ビジネスモデル 基本・成功パターン・作り方が一 講義内で指示する 気に学べる』、\$1,760

## 成績評価の方法、評価基準:

レポート課題・プレゼンテーション等(100%)で総合評価する。

### 学生へのアドバイス:

授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。

## オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文) デジタル社会とコミュニケーション(Digital Society and Communication) 科目分類 専門科目									
担当教員	( 員 鈴木 秀顕								
履修条件	前提科目なし								
限 修 朱 什	その他 PCを持参の上、参加してください。								

本講義は、社会とりわけ情報社会を理解した上で、コミュニケーション技術の基礎とそれにまつわる社会現象上の諸問題を、多角的に理解する。また、企業、個人、地域社会、自治体、マスコミ、それぞれの立場に立った上でのコミュニケーションについて、議論により理解を深める。PC上のコミュニケーションツールを利用して、ディスカッションを行います。

#### 授業目標:

現代社会のコミュニケーションについて、コミュニケーション技術の基礎を理解し、自分自身がその情報コミュニケーション能力を身につける。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業計	<b>画、事前字習・事後字習、形式</b>		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ガイダンス (産業社会とメディアの変容)	事前:なし 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
2	「メタバース空間とアバター」メタバースに入室し、メタバース空間の中でコミ ュニケーションをとります。	事前:精読①(115-124) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
3	「対人コミュニケーションの不確定性」について学習した内容をもとに、グルー プディスカッションを行い、理解を深める。	事前:精読①(115-124) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
4	「選択される情報と現実」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。	事前:精読①(125-137) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
5	「技術の進歩と社会の適応問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。	事前:精読①(138-147) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
6	「情報の格差問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッション を行い、理解を深める。	事前:精読①(148-158) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
7	「生活世界と情報モラル」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。	事前:精読①(159-168) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
8	「ネット世界の人間関係」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。	事前:精読①(169-180) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
9	「情報社会のなかの人間」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。	事前:精読①(181-190) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
10	「コミュニケーション学とは」について学習した内容をもとに、グループディス カッションを行い、理解を深める。	事前:精読②(1-28) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
11	「関係の中で生きること」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。	事前:精読②(29-46) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
12	「記号をなすこと」について学習した内容をもとに、グループディスカッション を行い、理解を深める。	事前:精読 (47-66) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
13	「意味の歩み」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行 い、理解を深める。	事前:精読 (67-96) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
14	「技術革新と技術仕様」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。	事前:精読(97-120) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分
15	「情報の開かれとコミュニケーションの閉じ」について学習した内容をもとに、 グループディスカッションを行い、理解を深める。	事前:精読(121-152) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカッション 45分

#### 教本:

参考文献:

- ①『情報社会とコミュニケーション技術』(明石書店)
- なし
- ②『コミュニケーション学講義』(書籍工房早山)

#### 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(50%)等で総合評価する。

## 学生へのアドバイス:

必ず事前にテーマについて調査の上、参加するようにしてください。また、PCを用意の上、参加してください。

## オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタル社会と人間(Digital Society and Human Beings) 科目分類 専門科目								
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履修条件	前提科目	前提科目なし							
限 形 朱 什	その他なし								

講義においてはデジタル社会を必ずしも自明なものと看做さず、アナログ社会をも含めた視座から、人間と社会に関する理論を俯瞰する。そのうえで、 履修者が各々考察を加え、意見を提起してもらいたい。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。

#### 授業目標:

デジタル・アナログを問わず、社会における人間の在り方とそれに附随する諸問題をトータルに把握することを目指す。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		
	0	©		

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態
1	講義の導入:「デジタル社会と人間」概説	事前:講義に臨む準備をする。 事後:講義内容を纏める。	講義 90分
2	〈欠陥動物〉としての人間と制度・文化	事前:Gehlen について調べておく。	講義 60分
	Arnold Gehlen と哲学的人間学	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
3	〈システム〉による「複雑性の縮減」効果	事前:Luhmann について調べておく。	講義 60分
	Niklas Luhmann とシステム論	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
4	デジタル社会においては伝統的教養が不要となるか	事前:Bourdieu について調べておく。	講義 60分
	Pierre Bourdieu と文化社会学 ①	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
5	デジタル社会は階層格差を解消するか	事前:「文化資本」について調べる。	講義 60分
	Pierre Bourdieu と文化社会学 ②	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
6	デジタル社会において〈公正〉は可能か	事前:Rawls について調べておく。	講義 60分
	John RawlsのLiberalismと正義論 ①	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
7	デジタル社会において〈公正〉は可能か	事前:AA について調べる。	講義 60分
	John RawlsのLiberalismと正義論 ②	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
8	デジタル社会は〈自由〉を保障しうるか	事前:Libertarianism 概念について調べておく。	講義 60分
	Libertarianの人間観と社会観 ①	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
9	デジタル社会は〈自由〉を保障しうるか	事前:Libertarianismの諸態様について調べておく。	講義 60分
	Libertarianの人間観と社会観 ②	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
10	デジタル社会における〈共同〉	事前:Communitarianism 概念について調べておく。	講義 60分
	Communitarianの人間観と社会観 ①	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
11	デジタル社会における〈共同〉	事前:Communitarianismの諸態様について調べておく。	講義 60分
	Communitarianの人間観と社会観 ②	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
12	デジタル社会と自己決定権	事前:Paternalism について調べておく。	講義 60分
	法学上の Paternalism とその正当化事由	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
13	デジタル社会と自己決定権	事前:臓器移植について調べる。	講義 60分
	臓器提供意思表示方式の事例から	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
14	デジタル社会と自己決定権	事前:「nudge 理論」について調べる。	講義 60分
	行動経済学・「nudge 理論」に対する批判的考察	事後:講義内容を纏める。	演習 30分
15	講義の総括と展望	事前:これまでの講義内容を纏める。 事後:試験の模範解答を作成する。	講義 90分

## 教本:

特に定めない。講義に際してはレジュメを配布する。

参考文献:

必要に応じて教場にて紹介する。

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

定期試験(100%)の成績による。

## 学生へのアドバイス:

定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪い、「不可」の評価が下される。なお、履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。

## オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタル社会	デジタル社会論(Digital Society)							
担当教員	髙髙 敏哉								
履修条件	前提科目なし								
腹   廖 宋   ]	その他 なし								

デジタル社会という言葉が広く使われています。しかし、その実際の姿はどのようなものなのでしょうか?この講義では、最近のデジタル社会の議論に触れながら、その社会について様々な角度から考察を試みます。後半は社会学の視点から、デジタル社会とそれ以前の社会を比較分析する視点を養い、幅広くデジタル社会に関わるための見識を身に付けます。

#### 授業目標:

①デジタル社会の様相について多角的に分析できる。

②社会学の視点からデジタル社会とそれ以前の社会を比較できる。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		
0	©			

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

汉木田			
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション:なぜ「デジタル社会」を学ぶか?	事前:各自の関心を高める 事後:配布教材学習	講義 45分 対話式 45分
2	日本における「デジタル社会論」: 最近の議論とその限界	事前:配布教材学習 事後:配布教材学習	講義 45分 対話式 45分
3	デジタル技術・デジタル化の特徴 ①	事前:教科書指定個所学習 事後:講義復習	講義 45分 対話式 45分
4	デジタル技術・デジタル化の特徴 ②	事前:教科書指定個所学習 事後:講義復習	講義 45分 対話式 45分
5	デジタル技術の社会への当てはめで何が起こるか ①	事前:教科書指定個所学習 事後:講義復習	講義 45分 対話式 45分
6	デジタル技術の社会への当てはめで何が起こるか ②	事前:教科書指定個所学習 事後:講義復習	講義 45分 対話式 45分
7	ミニ・プレゼンテーション	事前:プレゼン準備 事後:指摘箇所確認	対話式 90分
8	従来の社会的相互作用の姿(伝統的社会、工業化社会等)	事前:教科書指定個所学習 事後:配布教材学習	講義 45分 対話式 45分
9	デジタル社会の社会的相互作用:自己、シンボル、ドラマ化 ①	事前:配布教材学習 事後:配布教材学習	講義 45分 対話式 45分
10	デジタル社会の社会的相互作用:自己、シンボル、ドラマ化 ②	事前:配布教材学習 事後:配布教材学習	講義 45分 対話式 45分
11	情報とデジタル社会:フェイクニュース等	事前:配布教材学習 事後:配布教材学習	講義 45分 対話式 45分
12	ミニ・プレゼンテーション	事前:プレゼン準備 事後:指摘箇所確認	対話式 90分
13	AIとデジタル社会 ①	事前:配布教材学習 事後:配布教材学習	講義 45分 対話式 45分
14	AIとデジタル社会 ②	事前:配布教材学習 事後:配布教材学習	講義 45分 対話式 45分
15	まとめ	事前:配布教材学習 事後:配布教材学習	講義 45分 対話式 45分

教本:

参考文献:

『「デジタル社会」とは何か』(学習の友社) ¥1,760

『超デジタル世界』(岩波新書) ¥840

#### 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等(50%)、小テスト・レポート等(50%)で総合評価する。

### 学生へのアドバイス:

教科書は前半の講義に使います。購入しない場合、受講は控えてください(参考文献も、できれば参照しておくと知識が増えます。やや雑学的はありますが重要な知見もあります)。後半は、講義での配布物、視聴覚教材等で進行します。

### オフィスアワー:

初回講義日に伝えます。

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタルとエンターテイメント産業 (Digital Game Industry)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	真保 安一郎								
履修条件	前提科目	なし							
/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	その他	なし							

- 日本のゲーム産業の誕生から現在までの経緯を通じて、ゲームの歴史とその変遷を理解します。
- ・11回からはゲームの成長とコミック・アニメ等の他のメディアとの提携を通じてデジタル産業の拡大について学びます。
- ・15回はゲームのプロジェクトの立ち上げ方についての序章となっています。

#### 授業目標:

ゲーム産業の成り立ちを理解し、日本におけるゲーム産業の立ち位置を他のメディアとの関わりの中で認識する。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©		0

## 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ゲーム産業の歴史01: 概観を講師のキャリアとともに振り返る。自分の ゲーム経験をもとに、クラスのゲームに対する共通体験を認識する。	事前:自分のゲーム体験を振り返って おきましょう 事後:ゲーム産業の歴史における自分 の立ち位置を200字にまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
2	ゲーム産業の歴史02:米国のアタリショックと日本のアーケード スーパーマリオ誕生までの産業史的な流れを学び、当時の技術のレベルを認識する。	事前:80年代前半の北米のゲーム産業 を調べておく 事後:スーパーマリオ誕生の世界史的 な流れを200字でまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
3	ゲーム産業の歴史03:ファミコンが爆発的に売れた時、業界内では何が あったのか。スーパー・ファミコンの登場が社会になにをもたらしたの かを学ぶ。	事前:ファミコンの代表的なタイトル を調べておく 事後:スーパーファミコンにおける任 天堂の戦略を200字でまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
4	ゲーム産業の歴史04:95年とは何だったのか?PCノベルゲームの終焉。 95年の世界史的な位置付けを学ぶ。	事前:95年のIT情勢を調べておく 事後:インターネット登場の影響を200 字にまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
5	ゲーム産業の歴史05: セガとソニー その他のハードの乱立。群雄割拠 となった各社のハード戦略を学ぶ。	事前:セガのハード、ソニーのプレス テについて調べる 事後:各社のハード戦略について200字 にまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
6	ゲーム産業の歴史06:任天堂 VS SONY 2強時代へ。現在まで続くハードメーカーの戦略について学ぶ。	事前:任天堂のハードについて調べる 事後:任天堂のハードの歴史について 200字にまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
7	ゲーム産業の歴史07:モバイルゲームの台頭 モバゲー対 GREE ガチャ規制など、ゲーム業界の大きな変革期の背景と影響について学ぶ。	事前:2010年前後のモバイルゲームに ついて調べる 事後:携帯ゲームの当時の社会への影 響をを200字にまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
8	ゲーム産業の歴史08:スマホネイティブアプリの闇 パズドラとモンハン 日本の敗北。スマホネイティブ・アプリとは何か。それまでとどう違ったのかを学ぶ。	事前:スマホ・アプリに関する自分の 体験を振り返っておく 事後:現在の世界的な情勢・今後の展 開を200字にまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
9	ゲーム産業の歴史09: e-sportsとSteam 配信コンテンツの時代。現代世界を席巻しているSteamと日本では遅れ気味のe-sportsに関して知見を深める。	事前:現在の Steam の世界情勢を調べ ておく 事後:将来の展開を200字で予想する	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
10	ゲーム産業の歴史10:女性向けゲーム 恋愛ゲーム概論。一つのジャンルとして成立した女性向けゲームの特殊性と、ジャンル分けについて学ぶ。	事前:女性向けゲームについてどんな ものがあるか調べておく 事後:何が特殊でどう違うのかを200字 でまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
11	ゲームにおけるメディア連携01:どうして連携は必要だったのか?日本のエンターティンメント全体を俯瞰して、ゲームの位置付けと連携について学ぶ。	事前:ゲームにおける他メディアとの 連携例を調べておく 事後:なぜ必要だったのかを200字でま とめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分

12	ゲームにおけるメディア連携02: IPとキャラクター・グッズ、CD、主題 歌他。エンターティンメントのあらゆる方向に拡張していくゲーム IPの 姿を把握する。	事前:自分でもっているグッズ等を振り返っておく 事後:IPがどのように訴求していくのか200字にまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
13	ゲームにおけるメディア連携03:アニメ化、映画化、イベント事業。もっとも大きなメディアミックスといわれるアニメ、映画の映像化に関してその是非をディスカッションする。	事前:自分で見たことのあるゲーム関連アニメを調べておく 事後:成功例となった要因を200字でまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
14	ゲームにおけるメディア連携04:プレイ動画、Vtuber、Youtuberの時代へ。現在隆盛を極める、Tuber系のメディアにおけるゲームの位置付けと役割をディスカッションする。	事前:何本かゲームのプレイ動画を視聴しておく 事後:今後の発展可能性を200字でまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
15	ゲームの作り方 序章:ゲームを起ち上げる。ゲームを作り始めるには、まず何をどうすればいいか、講師の経験をもとにディスカッションを行い、半期のゲームの授業を振り返る。	事前:自分で作るならどのようなゲー ムがいいか考えておく 事後:半期の授業の感想を250字でまと める	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分

教本: なし

参考文献:

## 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等 (70%)、小テスト・レポート等 (30%) で総合評価する。

## 学生へのアドバイス:

日本が誇るゲーム産業の歴史を、ゲーム業界で35年間、実際に開発をしてきた講師の体験と知識に基づき学んでいきます。11回からは各種メディアとゲームの連携。最後はゲームの作り方にふれる予定です。

## オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタル認証技術基礎(Basic Digital Authentication Technology) 科目分類 専門科目								
担当教員	金宰郁								
履修条件	前提科目 <b>情報処理概論</b>								
限   下 宋   干	その他	なし							

現代社会においてデジタル認証技術は、情報システムや情報資産を維持・管理するために、さまざまな危険・脅威から保護するか定め運用・管理する一連のプロセスのことを言う。この授業では情報セキュリティ対策を実施するうえで、どのような情報をどのように保護していくかを定めた基本方針のことを学習しながらデジタル認証技術基礎を習得する。

#### 授業目標:

1. インターネットに代表されるデジタル認証技術、情報通信技術の現状を理解し、情報化社会における情報セキュリティ、知的財産権、個人情報保護等について幅広く学ぶ。 2. デジタル認証処理の基礎技術を学び、その応用力を身につける。

カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

<b>授業計</b>	一、事則字質・事後字質、形式		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ガイダンス、	事前:教科書の準備をする。	講義 80分、ディスカショ
	授業科目名であるデジタル認証について説明し、確認をする。	事後:認証関連書を調べる。	ン 10分
2	デジタル認証技術において数学的準備である情報(数値データ)	事前: n 進数について調べる。	講義 40分、ディスカショ
	のデジタル化を説明し、数値データ表現の課題を行う。	事後: 数値データ化を纏める。	ン 30分、課題 20分
3	デジタル認証技術において数学的準備である情報 (文字データ) のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。	事前:文字データを調べる。 事後:文字データ化を纏める。	講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分
4	数値、文字データのデジタル化の課題についてディスカションを	事前:バイナリデータを調べる。	講義 40分、ディスカショ
	行い、発表を行う。	事後:バイナリデータを纏める。	ン 30分、課題 20分
5	デジタル認証技術において数学的準備である情報 (画像データ)	事前:画像データを調べる。	講義 40分、ディスカショ
	のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。	事後:画像データ化を纏める。	ン 30分、課題 20分
6	デジタル認証技術において数学的準備である情報(音声データ) のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。	事前:音声データを調べる。 事後:音声データ化を纏める。	講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分
7	画像、音声データのデジタル化の課題についてディスカションを	事前:RGB, CMYK を調べる。	講義 40分、ディスカショ
	行い、発表を行う。	事後:RGB, CMYK を纏める。	ン 30分、課題 20分
8	情報セキュリティにおけるデジタル認証技術の概要、動向、及び 次世代デジタル認証技術を説明し、課題を行う。	事前:認証技術について調べる。 事後:デジタル認証技術の概要、動向を纏める。	講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分
9	デジタル認証技術であるメッセージ認証子(MAC)について説明 し、プログラミングを通じてその技術を確認する。	事前:MAC について調べる。 事後:MAC を纏める。	講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分
10	デジタル認証技術であるハッシュ(Hash)について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。	事前:ハッシュ値を調べる。 事後:ハッシュ値を纏める。	講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分
11	デジタル認証技術であるデジタル署名について説明し、プログラ	事前:デジタル署名を調べる。	講義 40分、ディスカショ
	ミングを通じてその技術を確認する。	事後:デジタル署名を纏める。	ン 30分、課題 20分
12	デジタル認証技術である多要素認証について説明し、プログラミ	事前:多要素認証を調べる。	講義 40分、ディスカショ
	ングを通じてその技術を確認する。	事後:多要素認証を纏める。	ン 30分、課題 20分
13	デジタル認証技術である生体認証について説明し、映像を見なが	事前:生体認証を調べる。	講義 40分、ディスカショ
	らディスカションを行い、その課題を行う。	事後:生体認証を纏める。	ン 30分、課題 20分
14	インターネット社会の情報セキュリティインターネット事件の最	事前:情報セキュリティ事件の事例を調べる。	講義 60分、ディスカショ
	近の事例を説明し、それについてディスカションを行う。	事後:事例を纏める。	ン 30分
15	デジタル認証技術について纏める。デジタル認証技術の授業科目 について感想を発表する。	事前:全資料を下読みする。 事後:発表の振り返り。	講義 50分、発表 40分

教本:

参考文献:

なし

なし

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

授業参加状況等(40%)、課題(40%)、発表(20%)等で総合評価する。

## 学生へのアドバイス:

初回の授業に必ず出席すること。認証技術の基礎知識(定義)を事前に調べること。

## オフィスアワー:

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタルビジネスモデル論(Digital Business Model) 科目分類 専門科目								
担 当 教 員	鈴木 秀顕	鈴木 秀顕							
履修条件	前提科目	なし							
限 形 朱 什	その他	なし							

現代社会における職業は、情報による DX や AI 経営が進められており、今までのビジネスモデルを理解するとともに、これからのビジネスモデルまでも理解する必要が出てくる。それらビジネスモデルについて、知見を得るとともに、議論により理解を深める。

#### 授業目標:

デジタルビジネスモデルを理解し、デジタルトランスフォーメーション DX や AI 経営に対する考え方を身につける。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	次世代企業の構築 (ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション)	事前:精読① (14-38) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
2	デジタル化がもたらす脅威と事業機会(ヤマダホールディングスグループ統合報 告書にてディスカッション)	事前:精読① (40-60) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
3	企業の未来のデジタルビジネスモデル(ヤマダホールディングスグループ統合報 告書にてディスカッション)	事前:精読① (62-97) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
4	デジタル競争優位を生み出すもの(ヤマダホールディングスグループ統合報告書 にてディスカッション)	事前:精読①(100-144) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
5	モバイルや IoT を使ってどのようにつながるか(ヤマダホールディングスグルー プ統合報告書にてディスカッション)	事前:精読①(146-194) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
6	AI 経営とは何か(グループディスカッション、発表)	事前:精読② (26-61) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
7	AI 経営の 5 つのレベル(グループディスカッション、発表)	事前:精読② (64-81) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
8	そもそも AI とは何か(グループディスカッション、発表)	事前:精読② (86-97) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
9	AI 経営に必要な BXT 思考(グループディスカッション、発表)	事前:精読②(99-126) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
10	AI 経営を実践する6つのステップ(グループディスカッション、発表)	事前:精読②(128-201) 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
11	ビジネスモデルナビゲータ―から選び事例調査、発表、ディスカッション	事前:事前調査 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
12	ビジネスモデルナビゲータ―から選び事例調査、発表、ディスカッション	事前:事前調査 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
13	ビジネスモデルナビゲータ―から選び事例調査、発表、ディスカッション	事前:事前調査 事後:議論レポートの作成	講義 45分 ディスカション 45分
14	企業選定、ビジネスモデル調査	事前:事前調査 事後:発表準備	選定 45分 調査 45分
15	ビジネスモデル発表	事前:発表準備 事後:振り返り	発表 90分

#### 教本:

参考文献:

- ①『デジタル・ビジネスモデル』(日本経済新聞出版社)
- 『ビジネスモデルナビゲーター』(翔泳社)

②『「AI経営」の教科書』(東洋経済新報社)

#### 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。

### 学生へのアドバイス:

ビジネスモデルを中心に考察、議論していきます。事前準備をしっかりしてから臨んでください。

### オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	哲学(Philoso	ophy)					科目分類	基礎科目	
担当教員	金澤 秀嗣								
履修条件	前提科目	なし							
限 修 朱 叶	その他	なし							

哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即しトータルに把握できるよう講義を進めたい。

#### 授業目標:

講義「哲学」では、古代から中世へ至る哲学史の系譜をたどり、〈存在論〉の生成と構造を明らかにすることを目指す。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

## 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	予備考察: 哲〈学〉と哲〈学史〉の相同について考察する。	事前:特になし 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
2	【古代哲学】 存在 ・「ある」とはどういうことか: ミレトス学派の〈アルケー〉論を紹介する。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
3	生成「ある」と「なる」 : エレア学派とヘラクレイトスの相違を明らかにする。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
4	ピュタゴラス学派の〈数〉概念を分析する。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
5	多元論・原子論に関する理解を促す。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
6	ソフィストの営為とその特徴を俯瞰する。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
7	ソクラテスによるソフィスト批判について吟味する。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
8	プラトン〈イデア〉論の特質を浮き彫りにする。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
9	アリストテレス形而上学①について検討する。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
10	アリストテレス形而上学②について検討する。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
11	【中世哲学】信仰と知は両立するか: 中世教父哲学における神概念と人間像①を考察する。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
12	中世教父哲学における神概念と人間像②を考察する。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
13	普遍が先か個物が先か:〈普遍論争〉について詳述する。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
14	スコラ哲学の論理①を学ぶ。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分
15	スコラ哲学の論理②を学ぶ。	事前:レジュメを熟読する。 事後:講義内容を復習する。	講義 90分

## 教本:

参考文献:

なし。毎講義時にレジュメ (プリント) を配布する。

岩崎武雄『西洋哲学史(再訂版)』(有斐閣)

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。

定期試験(100%)で評価する。

## 学生へのアドバイス:

私が提供するのは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。

### オフィスアワー:

木曜日昼休み。

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	伝統文化(Intr	oduction to Jap	anese Tradi	科目分類	専門科目				
担当教員	石井 みどり								
履修条件	前提科目	なし							
腹   廖 宋 十	その他	なし							

日本人は、海に囲まれた島国で、四季折々の豊かな自然とともに暮らしてきました。有形、無形を問わず、世代を超えて受け継がれてきた文化がたくさんあります。本講義では、日本人の日常生活の中にある伝統文化を学んでいきます。

#### 授業目標:

伝統文化の知識を習得し、その背景にあるものは何か、理解を深めることを目的としています。伝統文化には、日本人のどんな気持が込められているのでしょうか。みなさんは、日本の伝統文化の担い手として、これから何を表現していきますか?

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

权未引	来问回、							
授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態					
1	オリエンテーション	事前:なし 事後:伝統文化を学ぶ必要性	講義 90分					
2	「和」の伝統文化とは何か	事前:伝統文化とは何か 事後:「和」の十七条憲法	講義 90分					
3	食の文化 ① 和菓子	事前:和菓子の種類 事後:和菓子の歴史と文化	講義 60分 グループワーク 30分					
4	食の文化 ② カレーライス	事前:洋食の種類 事後:洋食の歴史と文化	講義 60分 ディスカッション 30分					
5	食の文化 ③ 鯨	事前:鯨の料理 事後:鯨の文化	講義 60分 ディスカッション 30分					
6	折紙の文化	事前:折紙を折る 事後:折紙の歴史と文化	講義 50分 グループワーク 40分					
7	うつろ舟の伝説	事前:身近にある伝説 事後:伝説とは何か	講義 60分 ディスカッション 30分					
8	言葉とは何か	事前:大学生の言葉 事後:言葉とは何か	講義 90分					
9	こどもの遊び 「どちらにしようかな」	事前:こどもの頃の遊び 事後:手遊びの楽しさ	講義 50分 グループワーク 40分					
10	江戸時代の旅と伊勢参り	事前:江戸時代について 事後:旅は「見る」こと	講義 60分 ディスカッション 30分					
11	明治時代の改暦と鉄道の発展	事前:幕末から明治の幕開け 事後:時刻と鉄道の発展	講義 60分 ディスカッション 30分					
12	元三大師とおみくじ	事前:おみくじについて 事後:元三大師とおみくじ	講義 50分 グループワーク 40分					
13	製糸女工から見る労働者の文化	事前:大学生のアルバイト 事後:労働者の文化	講義 60分 ディスカッション 30分					
14	神と神社の成り立ち	事前:神社について 事後:神と神社の成り立ち	講義 60分 ディスカッション 30分					
15	まとめ	事前:伝統文化とは何か 事後:伝統文化を学ぶ必要性	講義 90分					

## 教本:

資料を配布するので、教科書は指定しません。

参考文献:

適宜、指示します。

### 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等 (40%)、授業中の課題、定期試験 (60%) 等で総合評価します。

## 学生へのアドバイス:

文字だけで判断するのではなく、日本文化の本質を理解するよう心がけてください。

## オフィスアワー:

初回の授業で教えます。

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	ドイツ語 I (		科目分類	基礎科目					
担当教員	金澤 秀嗣								
履修条件									
履修条件	その他	「ドイツ語Ⅱ		、・・・・・・ 次ず履修する。		8得できなか~	った場合はこの限り	<b>」ではない)</b> 。	

本講は初学者を対象とし、ドイツ語の総合的な能力を習得する。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。 語学学習では出席が肝要である。定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪い、「不可」の評価が下される。なお履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。

#### 授業目標:

初級文法の基礎を習得し、ドイツ語技能検定試験・5級に合格するレベルへ到達する。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

仅未引	四、		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	Das Alphabet	事前:教科書該当部分の精読 事後:文字の復習	講義 30分 演習 60分
2	Aussprache(発音) ①	事前: 教科書該当部分の精読 事後:発音の復習	講義 30分 演習 60分
3	Aussprache(発音) ②	事前:教科書該当部分の精読 事後:発音の復習	講義 30分 演習 60分
4	人称代名詞と不定詞・定動詞の現在人称変化/ 定動詞の位置・語順	事前:教科書該当部分の精読 事後:代名詞・動詞の用法確認	講義 60分 演習 30分
5	sein の現在人称変化/Übungen	事前:教科書該当部分の精読 事後:Übungenの成果点検	講義 30分 演習 60分
6	名詞の性/名詞の格/冠詞の変化	事前:教科書該当部分の精読 事後:性と格変化の暗記	講義 60分 演習 30分
7	haben の現在人称変化/Übungen	事前:教科書該当部分の精読 事後:Übungen の成果点検	講義 30分 演習 60分
8	名詞の複数形/男性弱変化名詞と例外的な名詞	事前: 教科書該当部分の精読 事後: 弱変化の暗記	講義 60分 演習 30分
9	人称代名詞の3・4格/Übungen	事前:教科書該当部分の精読 事後:Übungenの成果点検	講義 30分 演習 60分
10	不規則動詞の現在人称変化/命令形 ①	事前:教科書該当部分の精読 事後:人称変化の暗記	講義 60分 演習 30分
11	不規則動詞の現在人称変化/命令形 ②/ Übungen	事前:教科書該当部分の精読 事後:Übungenの成果点検	講義 30分 演習 60分
12	不定冠詞類(所有冠詞・否定冠詞)	事前: 教科書該当部分の精読 事後: 不定冠詞の用法確認	講義 60分 演習 30分
13	定冠詞類/Übungen	事前:教科書該当部分の精読 事後:Übungen の成果点検	講義 30分 演習 60分
14	前期確認問題	事前:教科書該当部分の精読 事後:確認問題の再点検	講義 30分 演習 60分
15	前期確認問題の解答と解説/定期試験対策	事前:確認問題の再点検 事後:定期試験対策準備学習	講義 30分 演習 60分

教本:各自、最寄りの書店で注文または出版社サイト(右欄参照)を通じて、 予め以下の2冊を必ず購入しておくこと(不所持者は出席不可)。

- 1. 『Deutsch mit Liebe』 (朝日出版社) ¥2,860 ISBN:978-4-255-25421-0
- 2. 『初級者に優しい独和辞典 増補改訂版』(朝日出版社) ¥3,080 ISBN: 978-4-255-01343-5

参考文献:教本・辞典のほかは特に用いない。

なお、左記教本入手先のひとつである出版社サイトのアドレスは以下の通り:

- 1. https://text.asahipress.com/german/detail.php?id=1621
- 2. https://www.asahipress.com/bookdetail\_lang/9784255013435/

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験(100%)の成績による。

#### 学生へのアドバイス:

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語群に属する言語である。ゆえに英語を苦手とする者がドイツ語を履修するにあたっては、相当の覚悟が求められる。 単に曜日・時限の都合のみで履修選択した場合、単位の修得は極めて困難となろう。

### オフィスアワー:

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	ドイツ語 II (German II ) 科目分類 <b>基礎科目</b>								
担 当 教 員	金澤 秀嗣	金澤 秀嗣							
履修条件	前提科目 前期「ドイツ語 I」の単位を修得済みであること(単位未修得者は履修できない)。								
限 形 朱 干	その他	なし							

本講は、前期「ドイツ語 I 」の単位を修得した者を対象とする。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。語学学習では出席が肝要である。定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が 5 回に達した時点で定期試験受験資格を喪い、「不可」の評価が下される。なお履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。

### 授業目標:

初級文法を十分に理解し、ドイツ語技能検定試験・4級に合格するレベルへ到達する。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

#### 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態
1	Wiederholung	事前: 教科書該当部分の精読 事後: 学習した単元の復習	講義 30分 演習 60分
2	前置詞の格支配/前置詞と定冠詞の融合形	事前:教科書該当部分の精読 事後:前置詞の用法確認	講義 60分 演習 30分
3	前置詞のÜbungen	事前:教科書該当部分の精読 事後:Übungen の成果点検	講義 30分 演習 60分
4	分離動詞/非分離動詞	事前:教科書該当部分の精読 事後:分離・非分離の用法確認	講義 60分 演習 30分
5	分離動詞/非分離動詞の Übungen	事前:教科書該当部分の精読 事後:Übungen の成果点検	講義 30分 演習 60分
6	話法の助動詞	事前: 教科書該当部分の精読 事後: 話法の助動詞の用法確認	講義 60分 演習 30分
7	従属の接続詞 ①	事前:教科書該当部分の精読 事後:従属の接続詞の用法確認	講義 60分 演習 30分
8	話法の助動詞/従属の接続詞 ①の Übungen	事前:教科書該当部分の精読 事後:Übungen の成果点検	講義 30分 演習 60分
9	zu不定詞句	事前:教科書該当部分の精読 事後:zu不定詞句の用法確認	講義 60分 演習 30分
10	再帰代名詞と再帰動詞	事前: 教科書該当部分の精読 事後: 再帰の用法確認	講義 60分 演習 30分
11	zu 不定詞句/再帰代名詞と再帰動詞の Übungen	事前:教科書該当部分の精読 事後:Übungen の成果点検	講義 30分 演習 60分
12	動詞の3基本形/過去形/現在完了形	事前:教科書該当部分の精読 事後:動詞の3基本形の確認	講義 60分 演習 30分
13	動詞の3基本形/過去形/現在完了形の Übungen	事前:教科書該当部分の精読 事後:Übungen の成果点検	講義 30分 演習 60分
14	後期確認問題	事前:教科書該当部分の精読 事後:確認問題の再点検	講義 30分 演習 60分
15	後期確認問題の解答と解説/定期試験対策	事前:確認問題の再点検 事後:定期試験対策準備学習	講義 30分 演習 60分

教本:「ドイツ語Ⅰ」と同一であり、改めて購入する必要はない。

- 1. 『Deutsch mit Liebe』(朝日出版社) ¥2,860
- 参考文献: 数末,辞
  - 教本・辞典のほかは特に用いない。
- 2. 『初級者に優しい独和辞典 増補改訂版』(朝日出版社) ¥3,080

成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験(100%)の成績による。

### 学生へのアドバイス:

前期「ドイツ語 I」で獲得した知識を繰り返しブラッシュアップして、今後の学習へ有機的に結び付けてもらいたい。

## オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	ドイツ語コミュニケーション(German Communication) 科目分類 専門科目								
担当教員	金澤 秀嗣								
履修条件	前提科目 ドイツ語 I とドイツ語 I の両科目を既修し、両科目の単位を修得済みであることが望ましい。								
履 廖 朱 叶	その他	初級レベルの	初級レベルのドイツ語文法に習熟し、基本的な語彙(概ね 700 語)を有していることが求められる。						

初級レベルの文法・語彙をもとに、ドイツ語コミュニケーション能力を涵養する。語学学習では出席が肝要である。 定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪い、「不可」の評価が下される。 なお履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。

#### 授業目標:

初級レベルのドイツ語に熟達し、ドイツ語技能検定試験・3級を受験できるレベルへ到達することを目指す。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

#### 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	Lektion 0: Guten Morgen!	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
2	Lektion 1: Ich trinke gern Kaffee.	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
3	Lektion 2: Das ist ein Bierkrug.	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義: 45分 演習: 45分
4	Lektion 3: Ich kaufe einen Kopfhörer.	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
5	Lektion 4: Das ist mein iPhone.	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
6	Lektion 5: Ich kaufe drei Äpfel.	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
7	Lektion 6: Ich schenke meinem Freund einen Schal.	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
8	Lektion 7: Ich gehe in die Mensa.	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
9	Lektion 8: Ich stehe um halb acht auf.	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
10	Lektion 9: Ich will eine Reise machen.	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
11	Lektion 10: Hast du schon dein Referat geschrieben?	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
12	Lektion 11: Ich habe ein sehr gutes Wörterbuch.	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
13	Lektion 12: Wer ist fleißiger, Frank oder Werner?	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
14	Lektion 13: Das Geschäft wird um 7 Uhr geöffnet.	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分
15	Lektion 14: Wenn ich mehr Geld hätte, …	事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習	講義:45分 演習:45分

教本:

参考文献: 『新装版・話すぞドイツ語! Kommunikation NEU』 (朝日出版社) ¥2,845

ISBN: 978-4-255-254645

各自、最寄りの書店で注文または出版社サイト(下記参照)を通じて予めテキスト

『初級者に優しい独和辞典 増補改訂版』(朝日出版社)¥3,080 ISBN: 978-4-255-013435

同書以外でも構わないが、辞書を常時携帯すること。

を購入しておくこと(不所持の者には出席を認めない)

https://text.asahipress.com/german/detail.php?id=1923

### 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等(50%)、定期試験(50%)等で総合評価する。

## 学生へのアドバイス:

初回講義には必ず出席すること。欠席者には履修を認めない (履修登録の懈怠は欠席の理由とならない)。

### オフィスアワー

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	統計学(Stati	統計学(Statistics)						基礎科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履修条件	前提科目	なし							
腹形朱叶	その他 EXCELが使用可能なノートパソコンを用意すること								

近年、データ分析を専門とするデータサイエンティストという職種が着目されているが、統計学はデータサイエンティストだけでなく、一般のビジネスパーソンにとっても必要な基礎知識である。本講義では、統計学の基礎知識とサンプルデータによる演習課題を通してその活用法を学ぶ。

#### 授業目標:

統計学の基礎知識を学ぶことにより、データを分析・理解するための基礎能力の習得を目指す。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
©	0	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

1又未日	四、 争用于日		
授業 回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	シラバスの説明、統計学の概要	事前:シラバスを読む 事後:資料を復習する	講義
2	統計学で用いる用語、基本統計量	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
3	ヒストグラム、パレート図	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
4	分散と標準偏差 基準値と偏差値	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
5	相関分析	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
6	確率変数と期待値	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
7	確率変数と期待値 2	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
8	正規分布	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
9	母集団と標本	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
10	区間推定一1	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
11	区間推定-2	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
12	母平均の検定	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
13	母分散・母比率の検定	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
14	有意差検定-1-等平均仮説の検定	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分
15	有意差検定-2-母比率の有意差検定 まとめと活用事例	事前:指示されたキーワードの調査 事後:資料と課題を復習する	講義 30分 演習 60分

教本:

参考文献:

講義初回のガイダンスで指示する。

講義内で指示する。

#### 成績評価の方法、評価基準:

演習課題・レポート等(100%)で総合評価する。

## 学生へのアドバイス:

授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。

## オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修 選択	単 位 数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	文) 動画作成・メディア配信技術(Video Production and Media Broadcasting Techniques) 科目分類 専門科目							
担当教員	秋廣誠							
履修条件	前提科目	なし						
腹   廖 宋   円	その他 教室によってはノートバソコンが必要である							

動画制作とメディア配信の基本的な技術と理論、すなわち、映像の撮影、編集、オーディオ制作、特殊効果、脚本作成、ライブストリーミング、デジタル配信、著作権にかかわる技術と理論について、講義、演習を通して学ぶ。

#### 授業目標:

- 1) 動画制作と配信に関わる基本的技術を習得している。
- 2) 映像制作に関連する理論と、著作権、ライセンス等の問題を説明できる。
- 3) これらを統合し、映像作品を制作し、デジタル配信できる。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

权未引	又未引回、尹則子自・尹俊子自、形八						
授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態				
1	導入:動画制作とメディア配信の基本概念	事前:シラバスを読む 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
2	映像の構成要素: フレーミング、コンポジション、ライティング	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
3	オーディオ録音と編集の基礎	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
4	編集ソフトウェアの概要 カット、場面転換、エフェクト	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
5	ストーリーテリングと脚本:映像における物語構築	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
6	アニメーションとモーショングラフィックス	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
7	ライブ配信の基本:ストリーミングソフトウェアと設定	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
8	色補正とグレーディング:映像のムードとスタイルを形成する	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
9	YouTube 風のカット編集 1 無音部分やフィラーの自動削除	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
10	YouTube 風のカット編集2カットの間合いとテンポ	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
11	YouTube 風のカット編集3タイトルに凝る	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
12	YouTube 風のカット編集 4 音声と BGM	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
13	SNS を活用したプロモーション	事前:資料を下読みする 事後:コメントシートの作成	講義:60分 質疑応答:30分				
14	配信プロジェクトの立案/著作権とライセンス/映像制作の倫理	事前:資料を下読みする 事後:プロジェクトの立案	講義:60分 質疑応答:30分				
15	配信プロジェクト案の発表	事前:資料を下読みする 事後:フィードバック	講義:60分 質疑応答:30分				

## 教本:

参考文献:

適宜、参考資料を配布。

授業中に適宜指示する。

#### 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(60%)等で総合評価する。

## 学生へのアドバイス:

3304以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となる。

## オフィスアワー:

開講年次	3 年次 半期 選択·必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	読書と豊かな人間性(Reading and Rich Humanity) 科目分類 専門科目							
担当教員	横手 拓治							
履修条件	前提科目なし							
履修条件	その他 なし							

数多くの本が出ているいま、どの本を選ぶかは難しい。基準はさまざまだが、この授業ではロングセラー、ベストセラーに注目する。教員の著書『ベストセラー全史・現代篇』をテキストにするが、基本はテーマごとに扱い、テキストの対象ページはその都度示す。なお対象作品の内容を知るために、本の一部を読む機会を作り、また映像化素材も必要に応じて使っていく。双方向性を適宜導入。

#### 授業目標:

世代や立場を超えた話題作は、時代や社会を映す役割もある。なぜ多くの人に読まれたのかを考えながら、ベストセラー書に触れる体験を通じて、人びとの関心を集めるものへの理解を増やすこともまた、この授業の目標になる。

## カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0	©	

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業 回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ガイダンス	事前:書店に行く 事後:テキストに目を通す	講義45分、応答45分
2	ノンフィクションの名作① 日記・手紙	事前: テキスト対象頁を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、 作品鑑賞と読解45分
3	ノンフィクションの名作② 自伝(20世紀)	事前: テキスト対象頁を読む 事後:復習、関連作品を読む	講義45分、 作品鑑賞と読解45分
4	純愛ものの名作	事前: テキスト対象頁を読む 事後:復習、関連作品を読む	講義45分、 作品鑑賞と読解45分
5	実用書の話題作	事前: テキスト対象頁を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、 作品鑑賞と読解45分
6	アクティブ・ラーニング①~書店で話題書を探す	事前:発表の準備をする 事後:レビューの整理を行う	発表60分、応答30分
7	現代小説の有力作、話題書①~翻訳書	事前:テキスト対象頁を読む 事後:復習、関連作品を読む	講義45分、 作品鑑賞と読解45分
8	現代小説の有力作、話題書②~日本の作家	事前:テキスト対象頁を読む 事後:復習、関連作品を読む	講義45分、 作品鑑賞と読解45分
9	本屋大賞の本	事前: テキスト対象頁を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、 作品鑑賞と読解45分
10	教養書(新書)の名作	事前:テキスト対象頁を読む 事後:復習、関連作品を読む	講義45分、 作品鑑賞と読解45分
11	ノンフィクションの名作③ 自伝(21世紀)	事前: テキスト対象頁を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、 作品鑑賞と読解45分
12	自己啓発の有力作、話題書	事前:テキスト対象頁を読む 事後:復習、関連作品を読む	講義45分、 作品鑑賞と読解45分
13	アクティブ・ラーニング②~SNSで話題書を探す	事前:発表の準備をする 事後:レビューの整理を行う	発表60分、応答30分
14	同時代に広く読まれているもの	事前: テキスト対象頁を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義60分、応答30分
15	まとめと授業内課題	事前:テキストを改めて読む 事後:全体の再復習	講義45分、課題45分

#### 教本:

参考文献:

『ベストセラー全史 現代篇』(澤村修治著、筑摩書店) 本書は教員の筆名著書である。 授業において適宜示し、またコピーを配布する。

成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。

学生へのアドバイス:

取りあげる作家・作品については、図書館やweb情報、web動画で知識を増やし、作品に触れておくこと。

オフィスアワー:

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	特別の支援を必	必要とする幼児理	解(障がい児債	呆育) (Childe	are of disabl	ed children)	科目分類	専門科目	
担 当 教 員	荒木 光								
履修条件	前提科目	なし							
腹   廖 朱   円	その他	なし							

障がいのある子どもの発達や特性を理解し、適切な支援方法を学ぶ。保育現場での対応力を身につけ、家族や周囲と協力しながらインクルーシブな保育を実践できる力を養う。

#### 授業日標

- 1. 障がい児保育の理念と歴史を学び、基礎的な理解を深める。
- 2. 子どもの特性や発達に応じた援助・配慮を学ぶ。
- 3. 保育計画の立案や具体的な援助方法を理解する。
- 4. 家庭支援や関係機関との連携・協働について学ぶ。
- 5. 障がい児保育の現状と課題を理解する。

#### カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
0		0

#### 授業計画、事前学習·事後学習、形式

授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
保育現場にいる障がいのある子ども	事前:シラバスの確認 事後:復習(1回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
乳幼児期の発達課題と障がい特性①(愛着形成・運動発達)	事前:予習(2回目の内容) 事後:復習(2回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
乳幼児期の発達課題と障がい特性②(基本的生活習慣と言語の発達)	事前:予習(3回目の内容) 事後:復習(3回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
障がい児保育の仕組み①(歴史・制度)	事前:予習(4回目の内容) 事後:復習(4回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
障がい児保育の仕組み②(ライフコース)	事前:予習(5回目の内容) 事後:復習(5回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
知的障がいのある幼児の特徴と支援	事前:予習(6回目の内容) 事後:復習(6回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
自閉症スペクトラム障がいのある幼児の特徴と支援	事前:予習(7回目の内容) 事後:復習(7回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
注意欠如・多動性障がいのある幼児の特徴と支援	事前:予習(8回目の内容) 事後:復習(8回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
学習障がいのある幼児の特徴と支援	事前:予習(9回目の内容) 事後:復習(9回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
視覚障がいのある幼児の特徴と支援	事前:予習(10回目の内容) 事後:復習(10回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
聴覚障がいのある幼児の特徴と支援	事前:予習(11回目の内容) 事後:復習(11回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
肢体不自由のある幼児の特徴と支援	事前:予習(12回目の内容) 事後:復習(12回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
インクルーシブ教育	事前:予習(13回目の内容) 事後:復習(13回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
保育所・幼稚園での支援体制	事前:予習(14回目の内容) 事後:復習(14回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
家族への支援	事前:予習(15回目の内容) 事後:復習(15回目の内容)	講義 60 分 討議 30 分
	保育現場にいる障がいのある子ども 乳幼児期の発達課題と障がい特性①(愛着形成・運動発達) 乳幼児期の発達課題と障がい特性②(基本的生活習慣と言語の発達) 障がい児保育の仕組み①(歴史・制度) 障がい児保育の仕組み②(ライフコース) 知的障がいのある幼児の特徴と支援 自閉症スペクトラム障がいのある幼児の特徴と支援 注意欠如・多動性障がいのある幼児の特徴と支援 学習障がいのある幼児の特徴と支援 閲覚障がいのある幼児の特徴と支援 聴覚障がいのある幼児の特徴と支援 を習覧でいのある幼児の特徴と支援 で習いのある幼児の特徴と支援 を育所・幼稚園での支援体制	保育現場にいる魔がいのある子ども

#### 教本:

参考文献:

「よくわかる障害児保育[第2版]」 ミネルヴァ書房 ¥2,500

授業中に随時紹介する。

#### 成績評価の方法、評価基準:

授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(30%)等で総合評価する。

#### 学生へのアドバイス:

障がい児保育は、子どもの個性や発達を理解し支える大切な学びです。最初は難しく感じるかもしれませんが、基本を押さえながら理解を深めてください。一人ひとりの笑顔を引き出せる保育士を目指し、前向きな姿勢で授業に参加することを期待しています。

### オフィスアワー: